

## イ. 現地調査

### (ア) 動物相の状況

現地調査の結果、調査地域において確認された動物相の状況は表 11.8.1-8 に示すとおりである。

表 11.8.1-8 調査地域の動物相

分類	目数	科数	種数
哺乳類	3	5	5
鳥類	10	28	53
両生類	1	2	2
爬虫類	2	6	6
昆虫類	14	172	631
魚類	9	17	37
底生動物	28	70	151

## ア) 哺乳類

哺乳類については、表 11.8.1-9 に示すとおり 3 目 5 科 5 種が確認された。

確認された種は、アブラコウモリ、ネズミ科の一種、アライグマ、タヌキ、イタチ属の一種の 5 種である。

調査地域は市街地及び公園，遊水地であり，生息する哺乳類は少なく，都市環境に適応したものが中心であると考えられる。

表 11.8.1-9 哺乳類の確認種一覧

No.	目和名	科和名	種和名
1	コウモリ	ヒナコウモリ	アブラコウモリ
2	ネズミ	ネズミ	ネズミ科
3	ネコ	アライグマ	アライグマ
4		イヌ	タヌキ
5		イタチ	イタチ属
合計	3 目 5 科 5 種		

注) 分類体系は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト (平成 29 年度版)」(水情報国土データ管理センター, 2017 年公表) に準じた。  
ネズミ科は, 目撃情報による確認で種の特定まで出来ていない。  
イタチ属は, 足跡及び無人撮影法による確認で種の特定まで出来ていない。

## イ) 鳥類

鳥類については、表 11.8.1-10 に示すとおり 10 目 28 科 53 種が確認された。

市街地の沿道の植樹帯では、ヒヨドリ、ツグミ、スズメ、ハクセキレイ等、周辺の公園では、キジバト、シジュウカラ、カワラヒワ等の都市公園に頻繁にみられる種が多く確認された。

河川や遊水地では、マガモ、アオサギ、コサギ等の水鳥やツグミ、ハクセキレイ、アオジ等が確認された。

表 11.8.1-10(1) 鳥類の確認種一覧

No.	目和名	科和名	種和名	冬季	春季	初夏	夏季	秋季
1	ペリカン	ウ	カワウ		○	○	○	○
2	コウノトリ	サギ	ゴイサギ			○	○	
3			ササゴイ		○	○	○	○
4			ダイサギ		○	○	○	○
5			コサギ	○	○	○	○	○
6			アオサギ	○	○	○	○	○
7	カモ	カモ	マガモ	○	○	○		○
8			アヒル		○			
9			カルガモ	○		○		○
10			コガモ	○				○
11	タカ	タカ	ミサゴ	○				○
12			トビ	○	○	○	○	○
13		ハヤブサ	ハヤブサ	○				
14	ツル	クイナ	ヒクイナ	○		○	○	
15			バン		○	○		
16	チドリ	チドリ	コチドリ		○		○	
17		シギ	クサシギ	○				
18			イソシギ		○			○
19			タシギ	○				
20		カモメ	セグロカモメ	○				
21	ハト	ハト	ドバト	○	○	○	○	○
22			キジバト	○	○	○	○	○
23	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ		○	○	○	○
24	キツツキ	キツツキ	コゲラ		○	○	○	○
25	スズメ	ヒバリ	ヒバリ	○	○	○		○
26		ツバメ	ツバメ		○	○	○	○
27		セキレイ	キセキレイ					○
28			ハクセキレイ	○	○		○	○
29			セグロセキレイ		○	○	○	○
30		サンショククイ	リュウキュウサンショククイ					○
31		ヒヨドリ	ヒヨドリ	○	○	○	○	○
32		モズ	モズ	○		○		○
33		ツグミ	ジョウビタキ	○				
34			ノビタキ					○
35			イソヒヨドリ				○	○
36			シロハラ	○				
37			ツグミ	○				
38	ウグイス	ウグイス	○	○	○			
39		オオヨシキリ		○	○	○		
40		セッカ	○	○	○	○	○	

注)「○」は確認されたことを示す。

分類体系は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト(平成29年度版)」(水情報国土データ管理センター, 2017年公表)に準じた。

表 11.8.1-10(2) 鳥類の確認種一覧

No.	目和名	科和名	種和名	冬季	春季	初夏	夏季	秋季
41	スズメ	ヒタキ	エゾビタキ		○			○
42			コサメビタキ					○
43		シジュウカラ	ヤマガラ		○	○		
44			シジュウカラ	○	○	○	○	○
45		メジロ	メジロ	○	○	○	○	○
46		ホオジロ	ホオジロ		○	○	○	○
47			アオジ	○				
48		アトリ	カワラヒワ	○	○	○	○	○
49			イカル	○				
50		ハタオリドリ	スズメ	○	○	○	○	○
51		ムクドリ	ムクドリ	○	○	○	○	○
52		カラス	ハシボソガラス	○	○	○	○	○
53			ハシブトガラス	○	○	○	○	○
合計	10目 28科 53種			32種	33種	33種	27種	36種

注)「○」は確認されたことを示す。

分類体系は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（平成 29 年度版）」（水情報国土データ管理センター，2017 年公表）に準じた。

## ウ) 両生類

両生類については、表 11.8.1-11 に示す 1 目 2 科 2 種が確認された。  
遊水地の湿性草地でウシガエル、ヌマガエルが確認された。

表 11.8.1-11 両生類の確認種一覧

No.	目名	科名	種名
1	無尾	アカガエル	ウシガエル
2		ヌマガエル	ヌマガエル
合計	1 目 2 科 2 種		

注) 分類体系は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（平成 29 年度版）」（水情報国土データ管理センター，2017 年公表）に準じた。

## エ) 爬虫類

爬虫類については、表 11.8.1-12 に示す 2 目 6 科 6 種が確認された。

市街地や草地等でニホンヤモリ、ニホンカナヘビ、シマヘビ、河川等ではクサガメ、ミシシippアカミミガメ、ニホンスッポンが確認された。

表 11.8.1-12 爬虫類の確認種一覧

No.	目名	科名	種名
1	カメ	イシガメ	クサガメ
2		ヌマガメ	ミシシippアカミミガメ
3		スッポン	ニホンスッポン
4	有鱗	ヤモリ	ニホンヤモリ
5		カナヘビ	ニホンカナヘビ
6		ナミヘビ	シマヘビ
—			ナミヘビ科
合計	2 目 6 科 6 種		

注 1) 分類体系は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（平成 29 年度版）」（水情報国土データ管理センター，2017 年公表）に準じた。

注 2) ナミヘビ科については、種の特定が困難であったため、種の特定まで出来ていない。また、同じ分類群の種（シマヘビ）の確認があるため、種数に含めていない。

## オ) 昆虫類

昆虫類については、表 11.8.1-13 に示すとおり 14 目 172 科 631 種が確認された。

目別の確認種数をみると、コウチュウ目、カメムシ目、ハエ目が多く、全体の約 5 割を占めていた。また、調査地域には公園や遊水地があることから、チョウ目、ハチ目も多く確認された。

市街地の沿道の植樹帯や草地等では、ショウリョウバッタ、トノサマバッタ等のバッタ類、クマゼミ、アブラゼミのセミ類、アオスジアゲハ、モンキチョウ等のチョウ類、周辺の公園では、ツマグロヒョウモン、モンシロチョウ等のチョウ類、ナミテントウ、キイロテントウ等のテントウ類の都市公園に普通にみられる種が多く確認された。

遊水地や水路では、シオカラトンボ、ウスバキトンボ類のトンボ類、チビゲンゴロウ等のゲンゴロウ類、ナナホシテントウ、ナミテントウ等のテントウ類が確認された。

表 11.8.1-13(1) 昆虫類の確認種一覧（目別確認状況）

目と名	科数	種数
カゲロウ	1	1
トンボ	4	11
ゴキブリ	2	2
カマキリ	1	3
ハサミムシ	2	4
バッタ	12	39
カジリムシ	1	1
カメムシ	33	119
アミメカゲロウ	2	7
トビケラ	3	3
チョウ	19	93
ハエ	33	107
コウチュウ	37	162
ハチ	22	79
14 目 172 科 631 種		

注) 分類体系は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（平成 29 年度版）」（水情報国土データ管理センター，2017 年公表）に準じた。

表 11.8.1-13(2) 昆虫類の確認種一覧 (全種一覧)

№	目名	科名	種名	№	目名	科名	種名	№	目名	科名	種名
1	カゲロウ	コカゲロウ	Baetis属	81	カメムシ	セミ	ツクツクボウシ	161	カメムシ	カメムシ	トゲシラホシカメムシ
2	トンボ	イトトンボ	アオモンイトトンボ	82			ニイニイゼミ	162			ムラサキシラホシカメムシ
3		ヤンマ	ギンヤンマ	83		ツノゼミ	マルツノゼミ	163			マルシラホシカメムシ
4		サナエトンボ	ウチウヤンマ	84		アワフキムシ	イシダアワフキ	164			ツヤアオカメムシ
5		トンボ	ヨツボシトンボ	85			ハマバアワフキ	165			エビイロカメムシ
6			ハラビロトンボ	86		ヨコバイ	キスジミドリヒメヨコバイ	166			クサギカメムシ
7			シオカラトンボ	87			ヒメアオズキンヨコバイ	167			アオクサカメムシ
8			シオヤトンボ	88			オオヨコバイ	168			ミナミアオカメムシ
9			オオシオカラトンボ	89			オナガトガリヨコバイ	169			イチモンジカメムシ
10			ウスバキトンボ	90			ヨツモンコヒメヨコバイ	170			ヒメチャバネアオカメムシ
11			コシアキトンボ	91			キスジカンムリヨコバイ	171			チャバネアオカメムシ
12			マユタテアカネ	92			クロミキイチモンジヨコバイ	172			アオクサカメムシ
13	ゴキブリ	ゴキブリ	クロゴキブリ	93			ヒメフタテシウスバヨコバイ	173			イネクロカメムシ
14		チャバネゴキブリ	モリチャバネゴキブリ	94			ツマグロヨコバイ	174		アメンボ	アメンボ
15	カマキリ	カマキリ	ハラビロカマキリ	95			Pagaronia属	175			ヒメアメンボ
16			コカマキリ	96			クヒラタヨコバイ	176		カタビロアメンボ	ホルバートケンカタビロアメンボ
17			チョウセンカマキリ	97			マダラヨコバイ	177		ミズムシ(昆)	クロチビミズムシ
18	ハサミムシ	ホルムネハサミムシ	ヒゲジロハサミムシ	98			サツマヨコバイ	178			オモナガコムズムシ
19			ハマバハサミムシ	99			クソシホソサジヨコバイ	179			ミスズムシ
20			コバネハサミムシ	100			チマダラヒメヨコバイ	180			マツモムシ
21		オオハサミムシ	オオハサミムシ	101		ヒメキジラミ	センダンコロキジラミ	181	アミメカゲロウ	クサカゲロウ	キントキクサカゲロウ
22	バッタ	ツコムシ	ツコムシ	102		ヒラズキジラミ	ヒラズキジラミ	182			クモンクサカゲロウ
23			ヒメクダマキモドキ	103		キジラミ	カエデキジラミ	183			ヤマトクサカゲロウ
24		キリギリス	ウスイロササキリ	104		アブラムシ	セイタカアワダチウワレギナガアブラムシ	184			カオマダラクサカゲロウ
25			オナガササキリ	105		サシガメ	ヨコソナサシガメ	185			ヒメニセコガタクサカゲロウ
26			ホシササキリ	106			アカシマサシガメ	186			フタモンクサカゲロウ
27			ササキリ	107			トビイロサシガメ	187		ヒメカゲロウ	Hemerobius属
28			ヒメギス	108			モモトトビイロサシガメ	188	トビケラ	シマトビケラ	Cheumatopsyche属
29			クビキリギリス	109			トゲサシガメ	189		クダトビケラ	Psychomyia属
30			ニシキリギリス	110			キイロサシガメ	190		ヒメトビケラ	Hydroptila属
31		ケラ	ケラ	111		グンバイムシ	アワダチソウグンバイ	191	チョウ	ミノガ	チャミノガ
32		マツムシ	ヒロバネカントン	112			ヤブガラシグンバイ	192		ネマルハキバガ	カレハチビマルハキバガ
33			マツムシ	113			ツツジグンバイ	193		カザリバガ	Cosmopterix属
34		コオロギ	ハラオカメコオロギ	114			ヒメグンバイ	194		コナガ	コナガ
35			ミツドコオロギ	115		ハナカメムシ	ナミメハナカメムシ	195		ハマキガ	シロデントカリバヒメハマキ
36			クマコオロギ	116			タイリクヒメハナカメムシ	196			ウスシロモンヒメハマキ
37			クマズムシ	117		カスミカメムシ	ナカグロカスミカメ	197			スギヒメハマキ
38			エンマコオロギ	118			ツマグロハギカスミカメ	198			クローバヒメハマキ
39			ツブレサセコオロギ	119			コドリチビカスミカメ	199		イラガ	ヒロヘリアオイラガ
40		カネタタキ	カネタタキ	120			ヨモギヒョウタンカスミカメ	200		マダラガ	タケノボソクロバ
41		アリツカコオロギ	Myrmecophilus属	121			クスギトビカスミカメ	201			ウスカシクロバ
42		ヒバリモドキ	マダラズ	122			フタトゲムギカスミカメ	202			ホタルガ
43			キンヒバリ	123			アカスジカスミカメ	203		セセリチョウ	イチモンジセセリ
44			シバズ	124			ウスモンミドリカスミカメ	204			チャバネセセリ
45			ヤチズ	125			イネホソミドリカスミカメ	205			キマダラセセリ
46			クロヒバリモドキ	126		マキバサシガメ	ハネナガマキバサシガメ	206		シジミチョウ	ムラサキツバメ
47			キアシヒバリモドキ	127		オオホシカメムシ	オオホシカメムシ	207			ムラサキシジミ
48		バッタ	ショウリョウバッタ	128			フタモンホシカメムシ	208			ルリシジミ
49			マダラバッタ	129			クロホシカメムシ	209			クロマダラソテツシジミ
50			ショウリョウバッタモドキ	130		ホソヘリカメムシ	クモヘリカメムシ	210			ウラギンシジミ
51			トノサマバッタ	131			ホソヘリカメムシ	211			ツバメシジミ
52			ツマグロバッタ	132		ヘリカメムシ	ホソハリカメムシ	212			ウラナシシジミ
53			イボバッタ	133			ヒメハリカメムシ	213			ベニシジミ
54		イナゴ	ハネナガイナゴ	134			オオクモヘリカメムシ	214			ヤマトシジミ本土亜種
55			コバネイナゴ	135		ヒメヘリカメムシ	スカシヒメヘリカメムシ	215		タテハチョウ	コムラサキ
56			ツチイナゴ	136			アカヒメヘリカメムシ	216			ツマグロヒョウモン
57		オンブバッタ	オンブバッタ	137			コブチヒメヘリカメムシ	217			ゴマダラチョウ本土亜種
58		ヒシバッタ	トゲヒシバッタ	138			ブチヒメヘリカメムシ	218			タテハモドキ
59			ハネナガヒシバッタ	139		イトカメムシ	イトカメムシ	219			ヒメジヤノメ
60			ハラヒシバッタ	140		ナガカメムシ	ヤスマツチビナガカメムシ	220			コスジ本州以南亜種
61	カジリムシ	ハグルマチャタテ	ハグルマチャタテ	141			ホソヒメヒラタナガカメムシ	221			キタテハ
62	カメムシ	ウンカ	ゴマフウンカ	142			コバネナガカメムシ	222			ヒメアカタテハ
63			タテヤマヨシウンカ	143			ヒメネジロツヤナガカメムシ	223			アカタテハ
64			タケウンカ	144			ヒメオオメナガカメムシ	224		アゲハチョウ	アオスジアゲハ
65			ヒメトビウンカ	145			ヨツボシヒョウタンナガカメムシ	225			カラスアゲハ本土亜種
66			トビイロウンカ	146			サビヒョウタンナガカメムシ	226			キアゲハ
67			ホソミドリウンカ	147			セスジヒメナガカメムシ	227			ナガサキアゲハ
68			セジロウンカ	148			ヒメナガカメムシ	228			クオアゲハ本土亜種
69			セジロウンカモドキ	149			ヒゲナガカメムシ	229			アゲハ
70			エゾナガウンカ	150			クロナシホソナガカメムシ	230		シロチョウ	モンキチョウ
71			コブウンカ	151			ウスチャヒョウタンナガカメムシ	231			キタキチョウ
72		ハネナガウンカ	アカハネナガウンカ	152			イチゴチビナガカメムシ	232			モンシロチョウ
73		テングスケバ	テングスケバ	153			ヒメジュウジナガカメムシ	233			
74		アオバハゴロモ	アオバハゴロモ	154		ツチカメムシ	ヒメツチカメムシ	234		ツトガ	ツトガ
75			トビイロハゴロモ	155			ツチカメムシ	235			ニカメイガモドキ
76		シマウンカ	シマウンカ	156		カメムシ	ウスラカメムシ	236			コブノメイガ
77		グンバイウンカ	ヒラタグンバイウンカ	157			ウシカメムシ	237			ツゲノメイガ
78			タイワンハウチワウンカ	158			シロヘリクチフトカメムシ	238			キアヤヒメノメイガ
79		セミ	クマゼミ	159			キマダラカメムシ	239			チビツトガ
80			アブラゼミ	160			ヒメナガメ	240			ワモンノメイガ

表 11.8.1-13(3) 昆虫類の確認種一覧 (全種一覧)

№	目名	科名	種名	№	目名	科名	種名	№	目名	科名	種名
241	チョウ	ツトガ	アワノメイガ	317	ハエ	ユスリカ	カタジロナガレツユスリカ	387	ハエ	ヤドリバエ	Euthera tuckeri
242			ユウグモノメイガ	318			イリエナガレユスリカ	388			ブランコヤドリバエ
243			マエアカスカシノメイガ	319			ヒメケバコユスリカ	389			マルボシヒラタヤドリバエ
244			シバツトガ	320			ピロウドエリユスリカ	390			クチナガハリバエ
245			シロオビノメイガ	321			ヒメクロユスリカ	-			ヤドリバエ科
246		メイガ	アカマダラメイガ	322			カスリモンユスリカ	391	コウチュウ	ホソクビゴミムシ	ミイデラゴミムシ
247			コマエジロホソメイガ	323			ヒメナガレヒゲユスリカ	392		オサムシ	キイロチビゴモクムシ
248		シヤクガ	ウスオエダシヤク	324			オオヤマヒゲユスリカ	393			アオグロヒラタゴミムシ
249			フタシロスジナミシヤク	-			Tanytarsus属	394			コアオマルガタゴミムシ
250			オイワケヒメシヤク	325		カ	ヒトスジシマカ	395			ニセマルガタゴミムシ
251			ウスキツバメエダシヤク	326		トゲナシケバエ	ヒメトゲナシケバエ	396			ナガマルガタゴミムシ
252			フタツメオオシロヒメシヤク	327		タマバエ	タマバエ科	397			ヒメツヤマルガタゴミムシ
253			ナミスジチビヒメシヤク	328		ニセケバエ	ニセケバエ科	398			ヨツモンエグロゴモクムシ
254		スズメガ	ウンモンズズメ	329		クロバネキノコバエ	クロバネキノコバエ科	399			オオホシボシゴミムシ
255			オオスカシバ	330		ミズアブ	キアシソルリミズアブ	400			キアシスレチゴミムシ
256			ホシホウシヤク	331			ハラキンミズアブ	401			ヒメキベリアオゴミムシ
257			セスジスズメ	332		ムシヒキアブ	アオメアブ	402			アトワアオゴミムシ
258		ドクガ	チャドクガ	333			シオヤアブ	403			セアカヒラタゴミムシ
259			スゲドクガ	334		アシナガバエ	マダラホソアシナガバエ	404			キイロコムシギワゴミムシ
260			ゴマフドクガ(日本本土・奄美群島)	335			Dolichopus属	405			ヒメケゴモクムシ
261		ヤガ	フタテンヒメヨトウ	-			アシナガバエ科	406			ウスアカクゴモクムシ
262			タマナヤガ	336		オドリバエ	オドリバエ科	407			アカアシマルガタゴモクムシ
263			カブラヤガ	337		アタマアブ	Dorylomorpha属	408			トックリゴミムシ
264			ヒメサビエジヨトウ	338			Eudorylas属	409			ブロンズクビナガゴミムシ
265			オオバコヤガ	339		ハナアブ	ホソヒラタアブ	410			ウスオビコムシギワゴミムシ
266			ナカグロクチバ	340			マドリヒラタアブ	411			オオヒラタゴミムシ
267			オオタバコガ	341			フタホシヒラタアブ	412			オオクロナガゴミムシ
268			オオシラナミアツバ	342			ホシツヤヒラタアブ	413			ミドリマメゴモクムシ
269			アオアツバ	343			オオハナアブ	414			クリイロコムシギワゴミムシ
270			ウラジロアツバ	344			ミナヒメヒラタアブ	415			ウスモンコムシギワゴミムシ
271			ヒメネジロコヤガ	345			マガイヒラタアブ	416			ヨツモンコムシギワゴミムシ
272			ニセウンモンクチバ	346			オオフタホシヒラタアブ	417		ゲンゴロウ	カンムリセスジゲンゴロウ
273			オオウンモンクチバ	347		バミバエ	バミバエ科	418			ハイイロゲンゴロウ
274			スジシロキヨトウ	348		ニセミギワバエ	ニセミギワバエ科	419			チビゲンゴロウ
275			フタオビコヤガ	349		キモグリバエ	キモグリバエ科	420			ナガマルチビゲンゴロウ
276			ヒメエグリバ	350		ショウジョウバエ	キイロショウジョウバエ	421	コソバゲンゴロウ	コソバゲンゴロウ	
277			マエホシヨトウ	351			オウトウショウジョウバエ	422		ガムシ	トゲバゴマフガムシ
278			シロシタヨトウ	-			Drosophila属	423			アカケシガムシ
279			クロスジヒメアツバ	352			マダラメマトイ	424			セマルケンガムシ
280			スジキリヨトウ	-			ショウジョウバエ科	425			ルイスヒラタガムシ
281			ハスモンヨトウ	353		ミギワバエ	ニミヤトビクチミギワバエ	426			コムシジミガムシ
282			シロスジアオトウ	354			カサネトビクチミギワバエ	427			チビマルガムシ
283		コバガ	ウスアオリガ	355			フタハマダラミギワバエ	428			ヒメガムシ
284	ハエ	ガガンボ	セダカガガンボ	356			ヒラウキブネミギワバエ	429		ハネカクシ	ヒメシリクロハネカクシ
285			Stringomyia nipponensis	-			ミギワバエ科	430			フタホシシリクロハネカクシ
286			クロキリウジガガンボ	357		シマバエ	Homoneura属	431			ニセコムシノハネカクシ
-			Tipula属	-			シマバエ科	432			アカニセコムシノハネカクシ
-			ガガンボ科	358		マルズヤセバエ	マルズヤセバエ科	433			クロズトガリハネカクシ
287		チョウバエ	チョウバエ科	359			ムネアカヒメヒロクチバエ	434			ウスアカバソノハネカクシ
288		スカカ	スカカ科	360			ヒゲナガヤチバエ	435			アオバアリガタハネカクシ
289		ケヨソイカ	Corethrella属	361			ヒトテンツヤホソバエ	436			キアシチビコガシラハネカクシ
290		ユスリカ	クロユスリカ	362		フンコバエ	Coproica属	437			チビクビボソノハネカクシ
291			フチグロユスリカ	-			フンコバエ科	438			アシマダラメダカハネカクシ
292			ヒシモンユスリカ	363		ミバエ	ノゲシケバカミバエ	439			コクノメダカハネカクシ
293			ジャワユスリカ	364			ネットイヒメクロミバエ	440			コムシノハネカクシ
294			ウスイロユスリカ	365		ハナバエ	ハナバエ科	441		マルハナミ	チャイロチビマルハナミ
295			ホソセスジユスリカ	366		クロバエ	ニセミヤマキンバエ	442			トビイロマルハナミ
296			オオユスリカ	367			キンバエ	443		コガネムシ	アオドウガネ
297			セスジユスリカ	368			コチビクロバエ	444			オオサカスジコガネ
-			Chironomus属	369			ツマクロキンバエ	445			コアオハナムグリ
298			イシガキユスリカ	-			クロバエ科	446			ナガチヤコガネ
299			フタスジツヤユスリカ	370		イエバエ	イネクキイエバエ	447			クロコガネ
300			Cricotopus tamannulatus	371			Coenosia属	448			アカビロウドコガネ
301			モモグロミツオビツヤユスリカ	372			セマダライエバエ	449			ピロウドコガネ
302			ミツオビツヤユスリカ	373			ヒメクロバエ	450			コガネムシ
-			Cricotopus属	374			クロツヤイエバエ	451			シロテンハナムグリ
303			イノウエユスリカ	375			シナホソカトリバエ	452		マルトゲムシ	シラフチビマルトゲムシ
304			ユミナリホソユスリカ	-			Lispe属	453		ナガハナミ	ヒゲナガハナミ
305			セダカコブナシユスリカ	376			イエバエ	454		タマムシ	ホソツツタマムシ
306			コムナトゲユスリカ	377			オオイエバエ	455			ヤナギチビタマムシ
307			ヒメコガタユスリカ	378			Phaonia属	456		コムツキムシ	サビキコリ
308			ケナガケバネエリユスリカ	379			シリモチハナレメイエバエ	457			コガタヒメサビキコリ
309			フトオケバネユスリカ	380		ニクバエ	トリオニクバエ	458			ツシマヒメサビキコリ
310			ウスイロハモンユスリカ	381			ジョセフニクバエ	459			クロツヤクシコムツキ
311			ヤマトハモンユスリカ	382			シリグロニクバエ	460			クシコムツキ
312			ヤモンユスリカ	383			ツシマニクバエ	461			マダラチビコムツキ
313			オオケバネユスリカ	384			コニクバエ	462			アカアシオオクシコムツキ
314			ウスイロカユスリカ	385			フィールドニクバエ	463			オオクシコムツキ
315			Pseudorthocladus属	-			Sarcophaga属	464		ヒゲトコムツキ	ナガヒゲトコムツキ
316			ミナミニセピロウドエリユスリカ	386		ヤドリバエ	ヒョウダンハリバエ	465		ジョウカイボン	セボシジョウカイ

表 11.8.1-13(4) 昆虫類の確認種一覧 (全種一覧)

№	目名	科名	種名	№	目名	科名	種名	№	目名	科名	種名	
466	コウチュウ	シバンムシ	刈イロタマキノシバンムシ	523	コウチュウ	ハムシ	ヒメドウガネトビハムシ	578	ハチ	アリ	オオズアリ	
467			オオホリタケシバンムシ	524			ヨモギハムシ	579			アミメアリ	
468		カッコームシ	ヤマヒメメダカカッコームシ	525			イチゴハムシ	580			トフシアリ	
469		ジョウカイモドキ	コケシジョウカイモドキ	526			ヨツモンカメノコハムシ	581			セダカウロコアリ	
470			ヒロオビジョウカイモドキ	527			スイノトビハムシ	582			ウロコアリ	
471			キアシオビジョウカイモドキ	528			フタスジヒメハムシ	583			オオシワアリ	
472		テントウムシ	ジュウクホシテントウ	529			ブタクサハムシ	584			キイロオオシワアリ	
473			ミスジキイロテントウ	530			ムネアカキバネサルハムシ	585			トビイロシワアリ	
474			ムーアシロホシテントウ	531			マルキバネサルハムシ	586		ドロバチ	オオフタオビドロバチ本土亜種	
475			ヒメアカホシテントウ	532			クロオビツツハムシ	587			クロスジスズバチ	
476			ナナホシテントウ	533			ナトビハムシ	588			キボシトックリバチ	
477			ナミテントウ	534			ダイコンナガサネトビハムシ	589			ムモントックリバチ	
478			ニジュウヤホシテントウ	535			サンゴジュハムシ	590			エントツドロバチ	
479			キイロテントウ	536			ニレハムシ	591			フトカギチビドロバチ	
480			ダンドラテントウ	537			ドウガネサルハムシ	592		スズメバチ	フタモンアシナガバチ本土亜種	
481			セスジヒメテントウ	538		ホソクチゾウムシ	ギシギシホソクチゾウムシ	593			ヤマトアシナガバチ	
482			モンクチビルテントウ	539		ゾウムシ	オオタコゾウムシ	594			セグロアシナガバチ本土亜種	
483			ヒメカメノコテントウ	540			アルファルファタコゾウムシ	595			キボシアシナガバチ	
484			クモガタテントウ	541			クワヒメゾウムシ	596			キアシナガバチ本土亜種	
485			ババヒメテントウ	542			エノキノミゾウムシ	597			コアシナガバチ	
486			クロヘリヒメテントウ	543			ニレノミゾウムシ	598			コガタスズメバチ	
487			クロスジヒメテントウ	544			アカアシノミゾウムシ	599			オオスズメバチ	
488			コクロヒメテントウ	545			スグリゾウムシ	600		クモバチ	ナミヒメクモバチ	
489			クロツヤテントウ	546			コブナシクチフトサルゾウムシ	-			Auplopus属	
490		ミジンムシ	チャイロミジンムシ	547			タデノクチフトサルゾウムシ	601			ベッコウクモバチ	
491		キスイムシ	キイロセマルキスイ	548			ホソクチフトサルゾウムシ	602		コツチバチ	マメコガネコツチバチ	
492			マルガタキスイ	549		オサゾウムシ	コクゾウムシ	603			ダイテンコツチバチ	
493		テントウムシシダマシ	ヨツボシテントウシダマシ	550			シバオサゾウムシ	604			アカハコツチバチ本土亜種	
494		オオキノコムシ	ヒメオビオオキノコムシ	551		チビゾウムシ	モンチビゾウムシ	605			スダコツチバチ	
495		コメツキモドキ	キムネヒメコメツキモドキ	552		キクイムシ	アカクビキクイムシ	606		ツチバチ	ヒメラナガツチバチ本土亜種	
496			ヒメムクゲオオキノ	553	ハチ	ミフシハバチ	ルリチュウレンジ	607			コモンツチバチ	
497		ヒメマキムシ	ニセクロオビケンマキムシ	554		ハバチ	ハグロハバチ	608		ギンチバチ	ヒメオロギバチ本土亜種	
498			ウスキケンマキムシ	555			Eutomostethus lubricus	609			チャタテギンチ	
499			ウスチャケンマキムシ	-			ハバチ科	610			ヤマトスダカバチ本土亜種	
500			ヤマトケンマキムシ	556		コマユバチ	コマユバチ科	611		アリマキバチ	キアシマエダテバチ	
501		ネスイムシ	トビイロデオネスイ	557		ヒメバチ	Aphanistes属	612		アナバチ	コクロアナバチ	
502		ケンキスイ	ヒメヒラタケンキスイ	558			Enicospilus属	613			アメリカジガバチ	
503			モンチビヒラタケンキスイ	559			Xanthopimpla属	614			クロアナバチ本土亜種	
504			マルキマダラケンキスイ	-			ヒメバチ科	615		ミツバチ	ニホンミツバチ	
505		ヒメハナムシ	エムモンチビヒメハナムシ	560		ハコヤドリコバチ	ハエヤドリコバチ科	616			セイウミツバチ	
506			クロズマルヒメハナムシ	561		タマゴクバチ	タマゴクバチ科	617			キムネクマバチ	
507		アリモドキ	ケオビアリモドキ	562		アシトコバチ	チビツキアシトコバチ	618		ムカシハナバチ	アシトコカシハナバチ	
508			タナカホソアリモドキ	563		カタビロコバチ	カタビロコバチ科	619			ホソメンハナバチ	
509			ヨツボシホソアリモドキ	564		セイボウ	ツマムラサキセイボウ	620			マツムラメンハナバチ	
510		ハナノミ	チャイロヒメハナノミ	565		アリ	オオハリアリ	621		コハナバチ	アカガネコハナバチ	
511			セグロヒメハナノミ	566			ウメマツオオアリ	622			ホクダイコハナバチ	
512		カミキリモドキ	フタイロカミキリモドキ	567			ハリプトシリアゲアリ	623			ツヤチビコハナバチ	
513		ゴミムシシダマシ	クワイロクチキムシ	568			テラニシシリアゲアリ	624			シロスジカタコハナバチ	
514			ヤマトスナゴミムシシダマシ	569			ハヤシクロヤマアリ	625			フタモンカタコハナバチ	
515			コスナゴミムシシダマシ	570			クロヤマアリ	626			キオビコハナバチ	
516			ユミアシゴミムシシダマシ	571			ニセハリアリ	627			ヒラタチビコハナバチ	
517		ハムシ	カミナリハムシ	572			トビイロケアリ	-			Lasios glossum属	
518			ヒメカミナリハムシ	573			クロヒメアリ	628			ミスホヤドリコハナバチ	
519			アカバナカミナリハムシ	574			ケブカアメイロアリ	629		ハキリバチ	ネジロハキリバチ	
520			ウリハムシ	575			アメイロアリ	630			バラハキリバチ本土亜種	
521			クロウリハムシ	576			ルリアリ	631			ムナカタハキリバチ本土亜種	
522			アオバナネサルハムシ	577			サクラアリ	-			Megachile属	
合計					14目172科631種							

注1) 分類体系は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト (平成 29 年度版)」(水情報国土データ管理センター, 2017 年公表) に準じた。

注2) 種名欄において科名及び属名で記載されている種については, 種の特定が困難であったため, 種の特定まで出来ていない。また, それらの種のうち, 同じ分類群の種の確認がある場合は, 種数に含めていない。

カ) 魚類

魚類については、表 11.8.1-14 に示すとおり 9 目 17 科 37 種が確認された。

調査地域及びその周辺の河川等において、コイ、オイカワ、モツゴ等のコイ類、ボラ等のボラ類、マハゼ、シマヨシノボリ等のハゼ類等が確認された。

表 11.8.1-14 魚類の確認種一覧

No.	目名	科名	種名		
1	カライワシ	カライワシ	カライワシ		
2	ウナギ	ウナギ	ニホンウナギ		
3	ニシン	ニシン	コノシロ		
4	コイ	コイ	コイ		
5			ゲンゴロウブナ		
6			ギンブナ		
—			フナ属		
7			オイカワ		
8			カワムツ		
9			モツゴ		
10			カマツカ		
11			ドジョウ	ドジョウ	
12			ナマズ	ナマズ	ナマズ
13			サケ	アユ	アユ
14	カダヤシ	カダヤシ	カダヤシ		
15	ダツ	メダカ	ミナミメダカ		
16	スズキ	スズキ	スズキ		
17			シマイサキ		
18			サンフィッシュ		
19			ブルーギル		
20			オオクチバス		
21			ヒイラギ	ヒイラギ	
22			ボラ	ボラ	
23			ドンコ	ドンコ	
24			カワアナゴ	カワアナゴ	
25			ハゼ	ハゼ	スミウキゴリ
26					ウキゴリ
27	ビリンゴ				
28	ウロハゼ				
29	マハゼ				
30	アシシロハゼ				
31	ヒナハゼ				
32	アベハゼ				
33	シマヨシノボリ				
34	ゴクラクハゼ				
35	旧トウヨシノボリ類				
—	ヨシノボリ属				
36	ヌマチチブ				
37	チチブ				
—	チチブ属				
合計	9 目 17 科 37 種				

注 1) 分類体系は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト (平成 29 年度版)」(水情報国土データ管理センター, 2017 年公表) に準じた。

注 2) 種和名欄において属名で記載されている種については、種の特定が困難であったため、種の特定まで出来ていない。また、それらの種のうち、同じ分類群の種の確認がある場合は、種数に含めていない。

## キ) 底生動物

底生動物については、表 11.8.1-15 に示すとおり 10 綱 28 目 70 科 151 種が確認された。  
綱別確認種数は、軟甲綱（ヨコエビ目，エビ目等），昆虫類（トンボ目，ハエ目等）が多  
く，全体の約 7 割を占めていた。

表 11.8.1-15(1) 底生動物の確認種一覧（分類別確認状況）

綱和名	目和名	科数	種数
有棒状体	三岐腸	1	2
紐形動物	—	—	1
腹足	アマオブネガイ	1	2
	新生腹足	4	5
	汎有肺	4	7
	異鰓	1	1
二枚貝	イガイ	1	1
	マルスダレガイ	2	2
ゴカイ	サシバゴカイ	1	3
	スピオ	1	2
	イトゴカイ	1	2
ミミズ	オヨギミミズ	1	1
	イトミミズ	2	7
	ツリミミズ	2	2
ヒル	吻蛭	1	2
	吻無蛭	2	2
顎脚	フジツボ	1	3
軟甲	タナイス	1	1
	ヨコエビ	5	7
	ワラジムシ	3	4
	アミ	1	1
	エビ	6	15
昆虫	カゲロウ	5	10
	トンボ	6	14
	カメムシ	2	4
	トビケラ	4	4
	ハエ	5	37
	コウチュウ	5	9
10 綱 28 目 70 科 151 種			

注) 分類体系は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（平成 29 年度版）」（水情報国土データ管理センター，2017 年公表）に準じた。

表 11.8.1-15(2) 底生動物の確認種一覧（全種一覧）

No.	門和名	綱和名	目和名	科和名	種和名	学名		
1	扁形動物	有棒状体	三岐腸	サンカクアタマウズムシ	ナミウズムシ	<i>Dugesia japonica</i>		
2				-	アメリカツノウズムシ	<i>Girardia dorocephala</i>		
-				-	三岐腸目	<i>Tricladida</i> sp.		
3	紐形動物	-	-	-	紐形動物門	<i>NEMERTINEA</i> sp.		
4	軟体動物	腹足	アマオブネガイ	アマオブネガイ	カノコガイ	<i>Clithon faba</i>		
5				-	イシマキガイ	<i>Clithon retropicum</i>		
6				新生腹足	リンゴガイ	スクミリンゴガイ	<i>Pomacea canaliculata</i>	
7				-	タニシ	ヒメタニシ	<i>Sinotaia quadrata histrica</i>	
8				-	カワザンショウガイ	ヒラドカワザンショウガイ	<i>Assiminea hiradoensis</i>	
-				-	-	カワザンショウガイ属	<i>Assiminea</i> sp.	
9				-	-	オカチグサ属	<i>Paludinassiminea</i> sp.	
10				-	ミズゴマツボ	ミズゴマツボ	<i>Stenothyra japonica</i>	
11				汎有肺	モノアラガイ	ヒメモノアラガイ	<i>Fossaria ollula</i>	
12				-	-	コシダカヒメモノアラガイ	<i>Lymnaea truncatula</i>	
13				-	-	ハブタエモノアラガイ	<i>Pseudosuccinea columella</i>	
14				-	-	モノアラガイ	<i>Radix auricularia japonica</i>	
-				-	-	モノアラガイ科	<i>Lymnaeidae</i> sp.	
15				-	-	サカマキガイ	<i>Physa acuta</i>	
16				-	-	ヒラマキガイ	Menetus属	<i>Menetus</i> sp.
17				-	-	カワコザラガイ	カワコザラガイ	<i>Laevapex nipponica</i>
18				-	異鰓	オカモノアラガイ	ナガオカモノアラガイ	<i>Oxyloma hirasei</i>
19				二枚貝	イガイ	イガイ	コウロエンカワヒバリガイ	<i>Xenostrobus securis</i>
20					マルスダレガイ	シジミ	ヤマトシジミ	<i>Corbicula japonica</i>
-					-	-	シジミ属	<i>Corbicula</i> sp.
21					-	カワホトトギス	イガイダマシ	<i>Mytilopsis sallei</i>
22	環形動物	ゴカイ	サンバゴカイ	ゴカイ	ヒメヤマトカワゴカイ	<i>Hediste atoka</i>		
23				-	ヤマトカワゴカイ	<i>Hediste diadroma</i>		
-				-	カワゴカイ属	<i>Hediste</i> sp.		
24				-	イトメ	<i>Tylorrhynchus osawai</i>		
-				-	-	ゴカイ科	<i>Nereididae</i> sp.	
25				スピオ	スピオ	Polydora属	<i>Polydora</i> sp.	
26				-	-	Pseudopolydora属	<i>Pseudopolydora</i> sp.	
27				イトゴカイ	イトゴカイ	イトゴカイ	<i>Capitella capitata</i>	
28				-	-	Notomastus属	<i>Notomastus</i> sp.	
29				ミミズ	オヨギミミズ	オヨギミミズ	オヨギミミズ科	Lumbriculidae sp.
30				-	イトミミズ	ヒメミミズ	ヒメミミズ科	Enchytraeidae sp.
31				-	-	ミズミミズ	エラオイミズミミズ	<i>Branchiodrilus hortensis</i>
32				-	-	-	エラミミズ	<i>Branchiura sowerbyi</i>
33				-	-	-	モトムラコリミミズ	<i>Limnodrilus claparedianus</i>
-				-	-	-	ユリミミズ属	<i>Limnodrilus</i> sp.
34	-	-	-	ナミズミミズ	<i>Nais communis</i>			
-	-	-	-	ミズミミズ属	<i>Nais</i> sp.			
35	-	-	-	トガリミズミミズ属	<i>Pristina</i> sp.			
36	-	-	-	ヨゴレミズミミズ	<i>Slavina appendiculata</i>			
-	-	-	-	ヨゴレミズミミズ属	<i>Slavina</i> sp.			
-	-	-	-	ミズミミズ亜科	<i>Naidinae</i> sp.			
-	-	-	-	イトミミズ亜科	<i>Tubificinae</i> sp.			
-	-	-	-	ミズミミズ科	<i>Naididae</i> sp.			
37	-	ツリミミズ	ツリミミズ	ツリミミズ科	Lumbricidae sp.			
38	-	-	フトミミズ	フトミミズ科	Megascolecidae sp.			
-	-	-	-	ミミズ綱	Oligochaeta sp.			
39	ヒル	吻蛭	ヒラタビル	ハバヒロビル	<i>Alboglossiphonia lata</i>			
40			-	ヌマビル	<i>Helobdella stagnalis</i>			
41			吻無蛭	イシビル	イシビル科	<i>Erpobdellidae</i> sp.		
42	-	-	ナガレビル	ナガレビル科	Salifidae sp.			

表 11.8.1-15(3) 底生動物の確認種一覧（全種一覧）

No.	門和名	綱和名	目和名	科和名	種和名	学名				
43	節足動物	顎脚	フジツボ	フジツボ	アメリカフジツボ	<i>Amphibalanus eburneus</i>				
44					シロスジフジツボ	<i>Fistulobalanus albicostatus</i>				
45					ドロフジツボ	<i>Fistulobalanus kondakovi</i>				
46		軟甲	タナイス	タナイス	キスイタナイス	<i>Sinelobus stanfordi</i>				
47					ヨコエビ	ユンボソコエビ	ニッポンドロソコエビ	<i>Grandidierella japonica</i>		
48						ドロクダムシ	Apocorophium属	<i>Apocorophium</i> sp.		
49							Monocorophium属	<i>Monocorophium</i> sp.		
50						カマカヨコエビ	カマカヨコエビ属	<i>Kamaka</i> sp.		
51						メリタヨコエビ	ヒゲツノメリタヨコエビ	<i>Melita setiflagella</i>		
52							シミズメリタヨコエビ	<i>Melita shimizui</i>		
-							メリタヨコエビ属	<i>Melita</i> sp.		
53							ハマトビムシ	ヒメハマトビムシ属	<i>Platorchestia</i> sp.	
54						ワラジムシ	ミズムシ(甲)	ミズムシ(甲)	<i>Asellus hilgendorfi</i>	
55							コツブムシ	ハバヒロコツブムシ	<i>Chitonosphaera lata</i>	
56								イソコツブムシ属	<i>Gnorimosphaeroma</i> sp.	
57							フナムシ	フナムシ	<i>Ligia exotica</i>	
58					アミ	アミ	イサザアミ属	<i>Neomysis</i> sp.		
59					エビ	クルマエビ	ヨシエビ	<i>Metapenaeus ensis</i>		
60						ヌマエビ	ミンレヌマエビ	<i>Caridina leucosticta</i>		
61							ミナミヌマエビ	<i>Neocaridina denticulata</i>		
-								カワリヌマエビ属	<i>Neocaridina</i> sp.	
62							テナガエビ	テナガエビ	<i>Macrobrachium nipponense</i>	
63							ユビナガスジエビ	<i>Palaemon macrodactylus</i>		
64							スジエビ	<i>Palaemon paucidens</i>		
65							スジエビモドキ	<i>Palaemon serrifer</i>		
66						アメリカザリガニ	アメリカザリガニ	<i>Procambarus clarkii</i>		
67						ベンケイガニ	クロベンケイガニ	<i>Chiromantes dehaani</i>		
68							アカテガニ	<i>Chiromantes haematocheir</i>		
69							ベンケイガニ	<i>Sesarmops intermedia</i>		
70						モクズガニ	モクズガニ	<i>Eriocheir japonica</i>		
71								アンハラガニ	<i>Helice tridens</i>	
72								ケフサイソガニ	<i>Hemigrapsus penicillatus</i>	
73								タイワンヒライソモドキ	<i>Ptychognathus ishii</i>	
74						カゲロウ	カゲロウ	トビイロカゲロウ	ヒメトビイロカゲロウ	<i>Choroterpes altioculus</i>
75								ヒメシロカゲロウ	ヒメシロカゲロウ属	<i>Caenis</i> sp.
76								マダラカゲロウ	アカマダラカゲロウ	<i>Teleganopsis punctisetae</i>
77		コカゲロウ	サホコカゲロウ	<i>Baetis sahoensis</i>						
78			フタモンコカゲロウ	<i>Baetis taiwanensis</i>						
79			フタバカゲロウ	<i>Cloeon dipterum</i>						
-				フタバカゲロウ属	<i>Cloeon</i> sp.					
80			ウスイロフトヒゲコカゲロウ	<i>Labiobaetis atrebatinus orientalis</i>						
81			ヒメウスバコカゲロウ属	<i>Procloeon</i> sp.						
82			ウデマガリコカゲロウ	<i>Tenuibaetis flexifemora</i>						
83			ヒラタカゲロウ	シロタニガワカゲロウ	<i>Ecdyonurus yoshidae</i>					
84		トンボ	イトトンボ	アオモンイトトンボ	<i>Ischnura senegalensis</i>					
-				イトトンボ科	Coenagrionidae sp.					
85			カワトンボ	ハグロンボ	<i>Atrocalopteryx atrata</i>					
86			サナエトンボ	ダビドサナエ	<i>Davidius nanus</i>					
87				タイワンウチワヤンマ	<i>Ictinogomphus pertinax</i>					
88				オナガサナエ	<i>Melligomphus viridicostus</i>					
89				コオニヤンマ	<i>Sieboldius albardae</i>					
90			オニヤンマ	オニヤンマ	<i>Anotogaster sieboldii</i>					
91			エントンボ	オオヤマトンボ	<i>Epopthalmia elegans</i>					
92			トンボ	ハラビロトンボ	<i>Lyriothemis pachygastra</i>					
93				シオカラトンボ	<i>Orthetrum albistylum speciosum</i>					
94				オオシオカラトンボ	<i>Orthetrum melania</i>					
95				ウスバキトンボ	<i>Pantala flavescens</i>					
96		コシアキトンボ		<i>Pseudothemis zonata</i>						
97			マユタテアカネ	<i>Sympetrum eroticum eroticum</i>						

表 11.8.1-15(4) 底生動物の確認種一覧（全種一覧）

No.	門和名	綱和名	目和名	科和名	種和名	学名		
98	節足動物	昆虫	カメムシ	アメンボ	アメンボ	<i>Aquarius paludum paludum</i>		
99					ヒメアメンボ	<i>Gerris latiaabdominis</i>		
100					シマアメンボ	<i>Metrocoris histrio</i>		
101			ミズムシ(昆)	ハイイロチビミズムシ	<i>Micronecta sahlbergii</i>			
-				チビミズムシ属	<i>Micronecta sp.</i>			
102			トビケラ	ムネカクトビケラ	ムネカクトビケラ属	<i>Ecnomus sp.</i>		
103				シマトビケラ	コガタシマトビケラ	<i>Cheumatopsyche brevilineata</i>		
104				クダトビケラ	クダトビケラ属	<i>Psychomyia sp.</i>		
105				ヒメトビケラ	ヒメトビケラ属	<i>Hydroptila sp.</i>		
106			ハエ	ガガンボ	ウスバガガンボ属	<i>Antocha sp.</i>		
107					ヒメガガンボ属	<i>Limonia sp.</i>		
108					ガガンボ属	<i>Tipula sp.</i>		
109				ヌカカ	ヌカカ科	<i>Ceratopogonidae sp.</i>		
110				ユスリカ	ダンダラヒメユスリカ属	<i>Ablabesmyia sp.</i>		
111					ビワヒゲユスリカ属	<i>Biwatendipes sp.</i>		
112					ケブカエリユスリカ属	<i>Brillia sp.</i>		
113					ハダカユスリカ属	<i>Cardiocladius sp.</i>		
114					セスジユスリカ	<i>Chironomus yoshimatsui</i>		
115					ユスリカ属	<i>Chironomus sp. (cf. plumosus)</i>		
116			エダゲヒゲユスリカ属		<i>Cladotanytarsus sp.</i>			
117			トラフユスリカ属		<i>Conchapelopia sp.</i>			
118			コナユスリカ属		<i>Corynoneura sp.</i>			
119			ツヤユスリカ属		<i>Cricotopus sp.</i>			
120			カマガタユスリカ属		<i>Cryptochironomus sp.</i>			
121			ホソミユスリカ属		<i>Dicrotendipes sp.</i>			
122			サトクロユスリカ属		<i>Einfeldia sp.</i>			
123			テンマクエリユスリカ属		<i>Eukiefferiella sp.</i>			
124			セボリユスリカ属		<i>Glyptotendipes sp.</i>			
125			フユユスリカ属		<i>Hydrobaenus sp.</i>			
126			ムナトゲエリユスリカ属		<i>Limnophyes sp.</i>			
127			ボカシヌマユスリカ属		<i>Macropelopia sp.</i>			
128			ツヤムネユスリカ属		<i>Microtendipes sp.</i>			
129			モンヌマユスリカ属		<i>Natarsia sp.</i>			
130			フトオヒゲユスリカ属		<i>Neozavrelia sp.</i>			
131			エリユスリカ属		<i>Orthocladius sp.</i>			
132			ニセコブナシユスリカ属		<i>Parachironomus sp.</i>			
133			カワリユスリカ属		<i>Paratendipes sp.</i>			
134			カモヤムユスリカ		<i>Poethastia longimanus</i>			
135			アカムシユスリカ		<i>Propillocerus akamusi</i>			
136			ハモンユスリカ属		<i>Polypedilum sp.</i>			
137			ナガレツヤユスリカ属		<i>Rheocricotopus sp.</i>			
138			ウスギスヒメユスリカ属		<i>Rheopelopia sp.</i>			
139			フサユキユスリカ属		<i>Symphothastia sp.</i>			
140			ヒゲユスリカ属		<i>Tanytarsus sp.</i>			
-			ヒゲユスリカ族		<i>Tanytarsini sp.</i>			
-			ユスリカ亜科		Chironominae sp.			
-			エリユスリカ亜科		Orthocladinae sp.			
-			ユスリカ科		Chironomidae sp.			
141			ミズアブ		ミズアブ	<i>Stratiomys japonica</i>		
142			ミギワバエ		ミギワバエ科	Ephydriidae sp.		
143			コウチュウ		ゲンゴロウ	セスジゲンゴロウ属	<i>Copelatus sp.</i>	
144					チビゲンゴロウ	<i>Hydroglyphus japonicus</i>		
145					コツブゲンゴロウ	コツブゲンゴロウ	<i>Noterus japonicus</i>	
146				ガムシ	キイロヒラタガムシ	<i>Enochrus simulans</i>		
147					ルイスヒラタガムシ	<i>Helochares pallens</i>		
148					コガムシ	<i>Hydrochara affinis</i>		
149					マメガムシ	<i>Regimbartia attenuata</i>		
-					ガムシ科	Hydrophiliidae sp.		
150				ヒメドロムシ	ヒメドロムシ亜科	Elmniae sp.		
151				ヒラタドロムシ	チビヒゲナガハナミ	<i>Ectopria opaca opaca</i>		
合計			5門10綱28目70科151種					

注1) 分類体系は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（平成29年度版）」（水情報国土データ管理センター，2017年公表）に準じた。

注2) 種和名欄において綱名，目名，科名及び属名で記載されている種については，種の特定が困難であったため，種の特定まで出来ていない。また，それらの種のうち，同じ分類群の種の確認がある場合は，種数に含めていない。

(イ) 重要種等の状況

ア) 重要な種

重要な動物の選定にあたっては、最新の法律や資料により判断するものとし、既存資料調査と同様、表 11.8.1-4 に示した選定基準を用いた。現地調査で確認された重要な種は表 11.8.1-16 に示すとおりである。

なお、イタチ属については、ニホンイタチが重要種に該当するが、今回調査で確認されたイタチ属の一種は、足跡及び無人撮影法による確認であるため、同定が出来ていない。チョウセンイタチの可能性が高いが、ニホンイタチの可能性も否定できないため、重要な種として選定する。

表 11.8.1-16(1) 現地調査により確認された重要な動物

番号	分類	科和名	種和名	選定基準					
				天然記念物	種の保存法	環境省 RL	海洋生物 RL	環境省版 RL	福岡県 RDB 2016 配慮指針 福岡市
1	哺乳類	イタチ	イタチ属 (ニホンイタチ)					NT	掲載種
2	鳥類	サギ	ササゴイ					NT	掲載種
3		タカ	ミサゴ			NT			掲載種
4		ハヤブサ	ハヤブサ		国内	VU		VU	掲載種
5		クイナ	ヒクイナ			NT		NT	掲載種
6		ウグイス	オオヨシキリ					NT	掲載種
7		ヒタキ	コサメビタキ					DD	掲載種
8		爬虫類	スッポン	ニホンスッポン			DD		DD
9	昆虫類	ミズムシ	オモナガコミズムシ					VU	掲載種
10		ドクガ	スゲドクガ			NT			
11		ゲンゴロウ	カンムリセスジゲンゴロウ					VU	掲載種
12			ナガマルチビゲンゴロウ					EN	
13		ガムシ	コガムシ			DD		VU	掲載種
14			チビマルガムシ					DD	
15		コガネムシ	オオサカスジコガネ					VU	
16		スズメバチ	ヤマトアシナガバチ			DD			掲載種
17		ハキリバチ	ネジロハキリバチ					DD	掲載種
18			ムナカタハキリバチ 本土亜種					NT	

注) 選定基準は表 11.8.1-4 の記号と対応している。

表 11.8.1-16(2) 現地調査により確認された重要な動物

番号	分類	科和名	種和名	選定基準					
				天然記念物	種の保存法	環境省 RL	海洋生物 RL	環境省版	福岡県 RDB
19	魚類	ウナギ	ニホンウナギ			EN		EN	掲載種
20		ドジョウ	ドジョウ			NT		VU	掲載種
21		アユ	アユ					NT	掲載種
22		メダカ	ミナミメダカ			VU		NT	掲載種
23		カワアナゴ	カワアナゴ					NT	掲載種
24		ハゼ	ウキゴリ					DD	掲載種
25		底生動物	ミズゴマツボ	ミズゴマツボ			VU		NT
26	モノアラガイ		コシダカヒメモノアラガイ			DD		DD	掲載種
27			モノアラガイ			NT		NT	掲載種
28	オカモノアラガイ		ナガオカモノアラガイ			NT		VU	掲載種
29	シジミ		ヤマトシジミ			NT		NT	掲載種
30	ゴカイ		イトメ				NT	DD	掲載種
31	ベンケイガニ		ベンケイガニ				NT	NT	掲載種
32	モクズガニ		タイワンヒライソモドキ				NT	DD	

注) 選定基準は表 11.8.1-4 の記号と対応している。

(i) 哺乳類

■ イタチ属 (ニホンイタチ)

[一般生態]

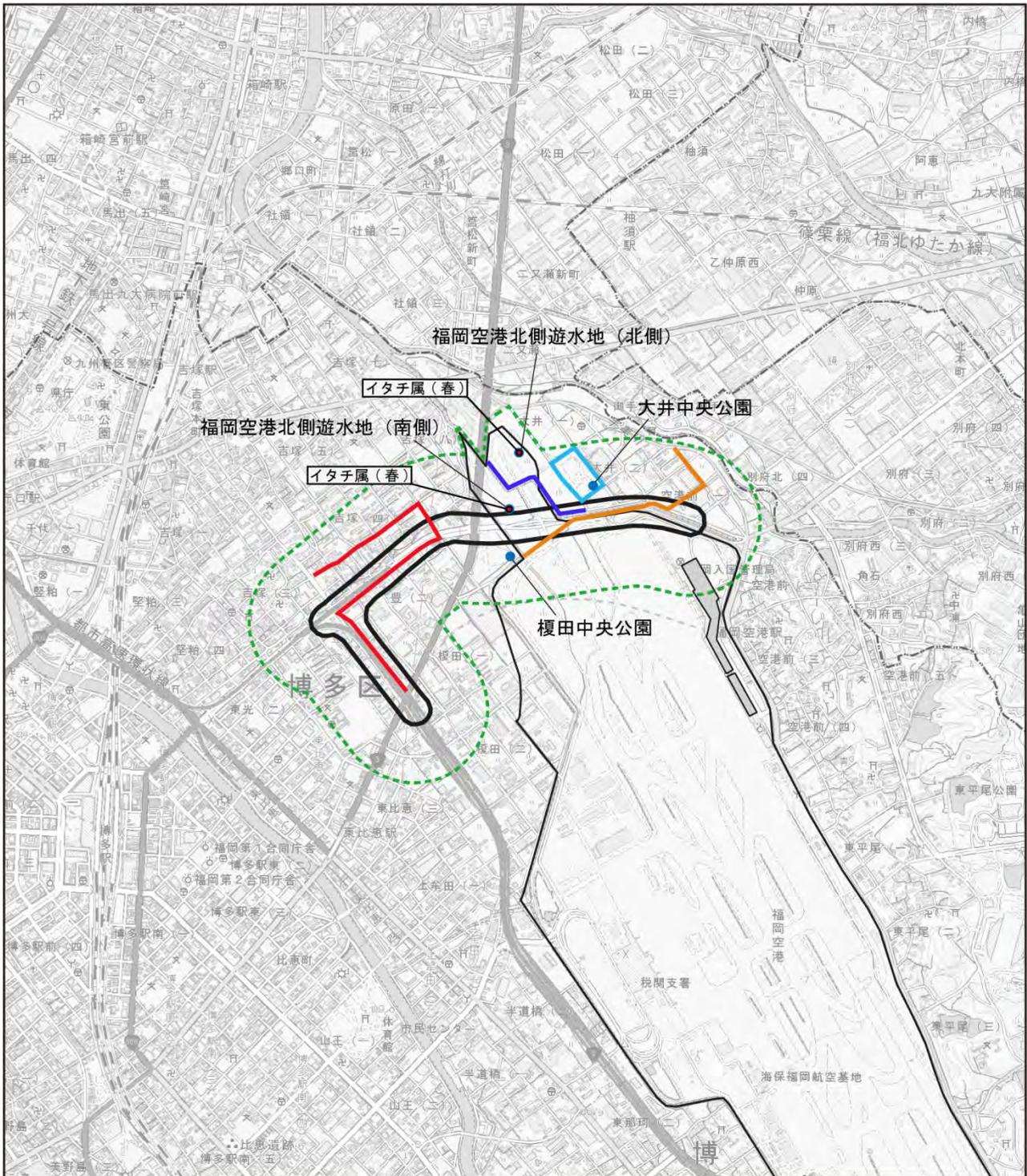
自然分布は本州，四国，九州で，北海道や伊豆諸島，奄美大島などネズミ駆除の目的で人為的に持ち込まれた地域も多い。本種はホンドイタチ *Mustela itatsi itatsi*，コイタチ *Mustela itatsi sho*（屋久島と種子島に生息）の2亜種に区分される。県内では，那珂川町，大野城市，福岡市，みやこ町に分布する。体色は夏毛で暗褐色，冬毛で赤褐色から黄褐色である。大きさに性差があり，頭胴長は雄 30～37cm，雌 20～22cm，尾長は雄 12～16cm，雌 8～9cm。主に水辺近くに生息し，鳥，ネズミ，カエル，魚などの小動物を好んで食べる。繁殖期は，九州では年に2回あり，1回の出産の産仔数は1～8匹で，平均は3～5匹。

チョウセンイタチは本種よりやや大型で，体色もやや異なるが，外見からの判断は難しい。一般に，尾率が40～45%であればイタチ，50%以上であればチョウセンイタチと区別する。

[出典：「福岡県希少野生生物－福岡県レッドデータブック 2001－」（平成13年，福岡県）  
「福岡県の希少野生生物－福岡県レッドデータブック 2011 植物群落・植物・鳥類・哺乳類－」（平成23年，福岡県）]

[現地調査結果]

現地調査結果では，図 11.8.1-3 に示すとおり，春季，夏季及び秋季調査において，市街地（足跡）及び福岡空港北側遊水地（無人撮影法）で確認された。



凡例

都市計画対象道路事業実施区域

国内線旅客ターミナル

福岡空港

市町村界

区界

調査範囲

● トラップ、センサーカメラ設置地点

ルート A (市街地)

ルート B (遊水地・水路)

ルート C (公園・市街地)

ルート D (草地・市街地・畑地)

● 重要種確認位置

※ルート A で足跡(春, 秋), ルート D で足跡(夏)を確認

1:25,000



図 11.8.1-3 現地調査による哺乳類の重要種の確認状況

## (ii) 鳥類

### ■ ササゴイ

#### [一般生態]

本種は、夏鳥として本州以南に渡来し、河川、湖沼、水田、池等に生息する。北海道では迷鳥、本州中部以南ではまれに冬もとどまり、奄美諸島以南では越冬する。食性は動物食で、魚類やカエル、水生昆虫を餌とし、水辺で待ち伏せをして捕食する。一部個体群では木の葉を水面に落とし、魚をおびき寄せて捕食する。繁殖期にはつがいで生活し、河畔林や市街地の社寺林、街路樹に単独もしくは小規模な集団で営巣する。その際、他のサギ類と混合コロニーを作ることはない。巣は木の枝を積み重ねた皿形で、産卵期は5～6月、卵数は3～6個、抱卵日数は21～25日程度である。

[出典：「日本の野鳥 650」(平成27年, 平凡社)  
「山溪カラー名鑑 日本の野鳥」(平成8年, 山と溪谷社) ]

#### [現地調査結果]

現地調査結果では、図 11.8.1-4 に示すとおり、春季、初夏、夏季及び秋季調査において、宇美川及び堅粕新川で確認された。宇美川周辺では小魚をくわえて飛翔する姿が確認されており、宇美川や堅粕新川に生息するカワムツやオイカワ等を捕食していると考えられる。

### ■ ミサゴ

#### [一般生態]

本種は、日本では九州以北で繁殖し、北海道では夏鳥。福岡県内には海岸部のほぼ全域に周年生息し冬季は個体数が増えるが、繁殖の報告は少ない。ボラ、スズキ、トビウオ、イワシ等の魚類だけを食べる。水面を高くゆっくり飛び回り、魚を見つけると停空飛行で狙いをつけ、翼をすばめて急降下し、水面近くで両脚をのばして大きな爪を開き魚をめがけて突っ込む。水面に近い魚を捕らえるだけでなく、より深いところの魚に対しては身体を完全に水没させて捕獲する。繁殖期は4～7月、年に1回、一夫一妻で繁殖する。岩棚等に流木や枯れ枝を積んで、かなり大きな皿形の巣を雌雄共同でつくり、同じつがいが何年も同じ巣を修復しながら利用することが多い。1巣卵数は2～3個、1～3日おきに1卵ずつ産卵し、抱卵は雌雄交替で34～40日行う。育雛期間は49～57日、雌は雛への給餌と巣の警戒を主な仕事とし、雄は狩りをして、餌を雌に渡す。

[出典：「日本の鳥 550 山野の鳥 増補改訂版」(平成16年, 文一総合出版)  
「福岡県希少野生生物-福岡県レッドデータブック 2001-」  
(平成13年, 福岡県)  
「原色日本野鳥生態図鑑 <陸鳥編>」(平成7年, 保育社) ]

#### [現地調査結果]

現地調査結果では、図 11.8.1-4 に示すとおり、冬季及び秋季調査において、ルートA踏査時に福岡都市高速空港線上空及び宇美川、堅粕新川上空を飛んでいる姿が確認された。秋季確認時には餌を運んでいる姿が確認されており、宇美川や堅粕新川等周辺河川を狩場としていると考えられる。

## ■ ハヤブサ

### [一般生態]

本種は、日本では九州以北で繁殖するほか、冬は全国に飛来する。広い空間で狩りをするため、海岸や海岸に近い山の断崖や急斜面、広大な水面のある地域や広い草原、原野等を生活域にする。獲物はほとんどがヒヨドリ級の中型の小鳥で、まれに地上でネズミやウサギを捕える。崖の上や見晴らしのよい木や杭等の止まり場所から空間を見張り、鳥が飛んでいるのを見つけると飛び立ち、獲物より高い位置に待機して、飛翔中の鳥の上空から翼をすぼめて急降下して脚で蹴落とす。繁殖期は3~4月、一夫一妻で繁殖する。海岸や海岸に近い山地の断崖の岩棚の窪みに、脚で砂泥や草の根等をかき出して産座をつくり直接産卵する。1巣卵数は3~4個、2~3日ごとに1卵ずつ産卵する。抱卵は初卵産卵日から始まり、主に雌が行う。育雛期には雌雄とも雛に給餌する。

[出典：「日本の鳥 550 山野の鳥 増補改訂版」(平成16年，文一総合出版)  
「原色日本野鳥生態図鑑 <陸鳥編>」(平成7年，保育社)]

### [現地調査結果]

現地調査結果では、図 11.8.1-4 に示すとおり、冬季調査において、定点調査時に遊水地内で飛翔する成鳥1個体が確認された。確認個体は遊水地内に群れでいたムクドリを追いかけ、ハンティングしようとしていたが、捕獲できず、南へ飛び去った。

## ■ ヒクイナ

### [一般生態]

本種は、日本には夏鳥として渡来し、ほぼ全国的に繁殖する。本州中部以南では越冬するものもいる。湿地を歩いたり泳いだりしながら、昆虫、クモ、カエル、エビ、小魚等をついばむ。植物質ではタデ科、イネ科、キク科等の草の種子も食べる。繁殖期は5~8月、年1~2回一夫一妻で繁殖すると考えられる。湖沼、河川、水田の水辺やヨシ原等の湿地に巣をつくるが、低木の低い枝に巣をつくることもある。イネ科植物、ヨシ、スゲ類の葉や茎を折り曲げて皿型の巣をつくる。1巣卵数は5~9個で通常は8個の例が最も多い。単独あるいはつがいで生活し、家族以外群れをつくることはなく、繁殖地では、一定範囲をなわばりとして構える。

[出典：「原色日本野鳥生態図鑑<水鳥編>」(平成7年，保育社)  
「日本の鳥 550 水辺の鳥」(平成13年，文一総合出版)]

### [現地調査結果]

現地調査結果では、図 11.8.1-4 に示すとおり、冬季、初夏及び夏季調査において、蒲生川で生息が確認された。本種が確認された蒲生川は、流量が少なく湿地状で、身を隠す植物も繁茂しており、本種の生息に適した環境となっていた。本種は周辺の水路や草地を利用し、生息しているものと考えられる。

## ■ オオヨシキリ

### 〔一般生態〕

本種は、夏鳥として九州以北の河口、河川、湖沼、休耕田等のヨシ原等に生息する。ヨシ原を茎から茎へと移動しながら昆虫を捕食し、飛んでいる昆虫をフライングキャッチすることもある。オスはヨシ原や低木の梢で盛んにさえずり、夜間もさえずり続けることがある。メスはオスより1週間から10日遅れて渡来し、オスとつがいになるが、一夫一妻の場合と一夫多妻の場合がある。巣は数本のヨシに、またがって作られ、イネ科植物の葉や茎を主材料にしたお椀型をしている。産卵期は5～8月、卵数は4～6個、抱卵日数は12～14日、巣立ちまでの日数は14日程度である。カッコウの生息する地方では、しばしば托卵の相手に選ばれる。

〔出典：「日本の野鳥 650」(平成27年, 平凡社)  
「山溪カラー名鑑 日本の野鳥」(平成8年, 山と溪谷社)〕

### 〔現地調査結果〕

現地調査結果では、図 11.8.1-4 に示すとおり、春季、初夏及び夏季調査において、ルートB、ルートD踏査時及び定点調査時に、遊水地内の高茎草地に生息が確認された。遊水地内には広範囲に渡って、ヨシやセイバンモロコシ等高茎草本が生育しており、本種にとって良好な環境であると考えられる。

## ■ コサメビタキ

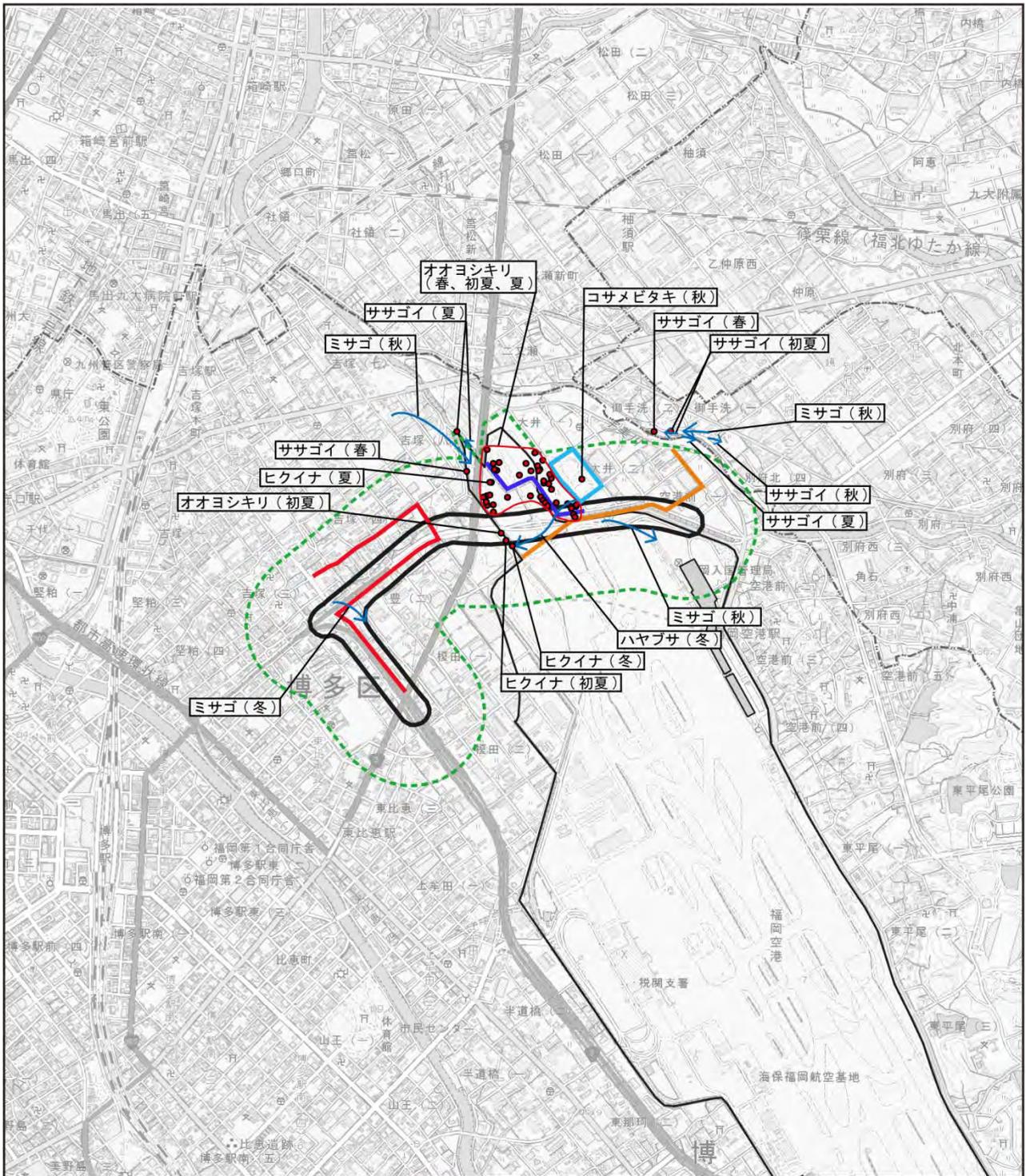
### 〔一般生態〕

本種は、夏鳥として北海道から九州の平地から山地の落葉広葉樹林、針広混交林等に生息する。渡りの時期には河畔林や都市部の公園等でも確認される。食性は動物食で、昆虫等を食べる。繁殖期には縄張りを形成し、落葉広葉樹林の高木の樹上に苔や樹皮をクモの糸で組み合わせた皿状の巣を作る。九州でも繁殖するが県内での観察記録はほとんどない。

〔出典：「日本の野鳥 650」(平成27年, 平凡社)  
「山溪カラー名鑑 日本の野鳥」(平成8年, 山と溪谷社)  
「福岡県の希少野生生物 -福岡県レッドデータブック 2011 植物群落・植物・鳥類・哺乳類-」(平成23年, 福岡県)〕

### 〔現地調査結果〕

現地調査結果では、図 11.8.1-4 に示すとおり、秋季調査において、ルートC踏査時に、大井中央公園内の樹木に止まっている様子が確認された。周囲には生息環境となる落葉広葉樹は少ないことから、渡りの途中に休んでいるところを今回確認したものと考えられる。



凡例

- 都市計画対象道路事業実施区域
- 国内線旅客ターミナル
- 福岡空港
- 市町村界
- 区界
- 調査範囲

- ルート A (市街地)
- ルート B (遊水地・水路)
- ルート C (公園・市街地)
- ルート D (草地・市街地・畑地)

【重要種確認位置】

- 停止個体
- 飛翔個体

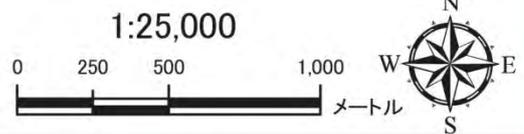


図 11.8.1-4 現地調査による鳥類の重要種の確認状況

### (iii) 爬虫類

#### ■ ニホンスッポン

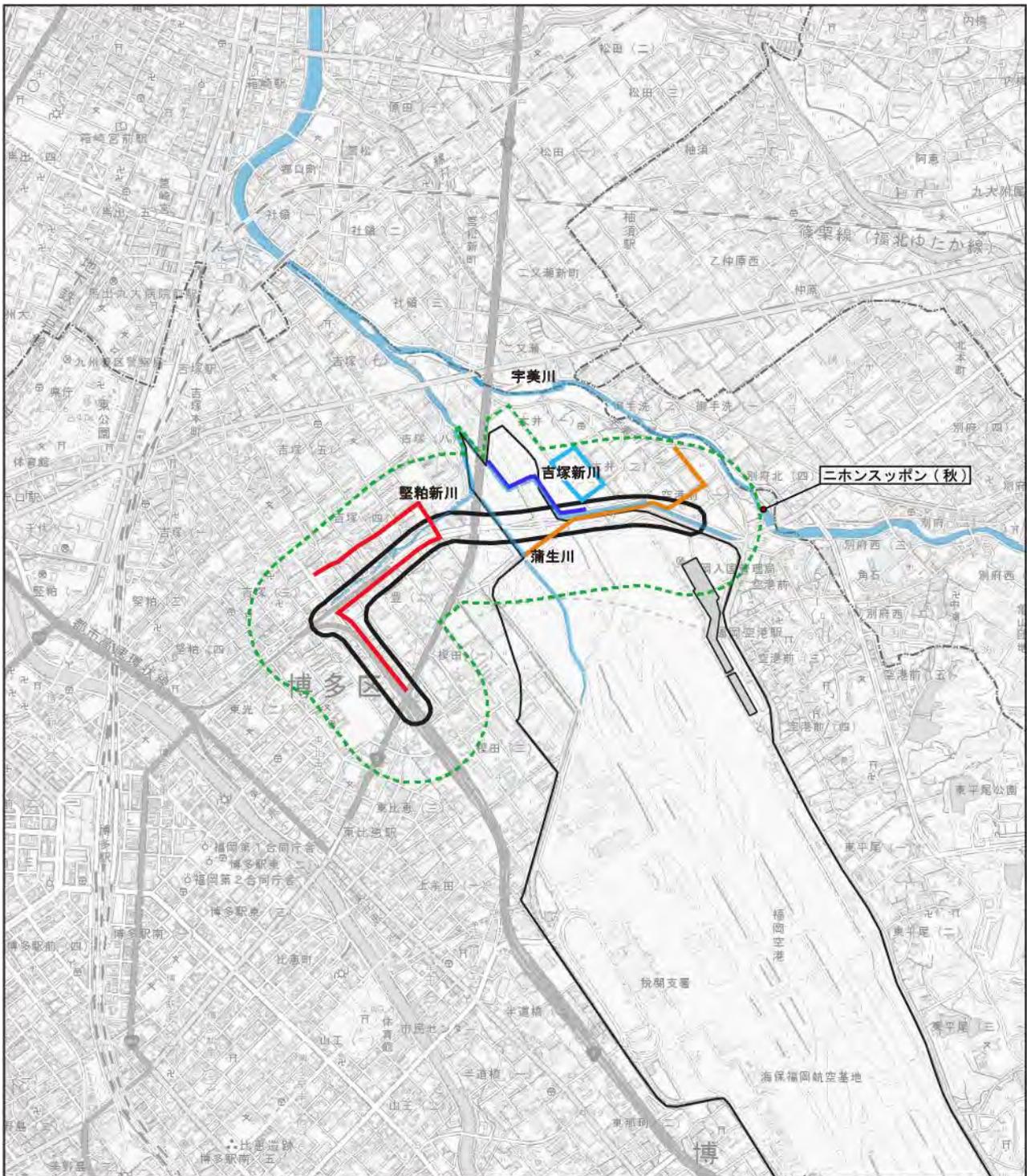
##### [一般生態]

本種は、北海道を除く全国に分布し、遺伝的に日本固有の種と中国大陸の種の2系統が生息しており、福岡県内ではどちらが分布しているのかは不明である。流れの緩やかな河川や湖沼等に生息する。日中は日光浴をしている姿が見られるが、警戒心が強く近づくとすぐに水の中に逃げ込む。食性は主に肉食で貝類や甲殻類、水生昆虫等を捕食するが、飼育下では植物質を食べる。春から初夏に交尾し、交尾後2ヶ月ほど立ってから5~40個程度産卵する。

[出典：「山溪ハンディ図鑑 日本のカメ・トカゲ・ヘビ」(平成23年，山と溪谷社)  
「福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2014 -爬虫類/両生類/魚類/昆虫類/貝類/甲殻類その他/クモ形類等-」(平成26年，福岡県)]

##### [現地調査結果]

現地調査結果では、図 11.8.1-5 に示すとおり、秋季調査において、魚類調査時に宇美川で生息が確認された。確認環境は流れが緩やかであり、本種にとって良好な生息環境であると考えられる。



凡例

- |   |                |   |                  |
|---|----------------|---|------------------|
|  | 都市計画対象道路事業実施区域 |  | ルートA (市街地)       |
|  | 国内線旅客ターミナル     |  | ルートB (遊水地・水路)    |
|  | 福岡空港           |  | ルートC (公園・市街地)    |
|  | 市町村界           |  | ルートD (草地・市街地・畑地) |
|  | 区界             |  | 重要種確認位置          |
|  | 調査範囲           |   |                  |

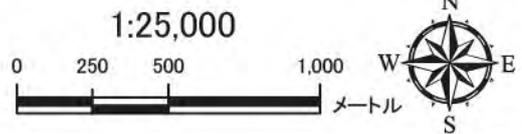


図 11.8.1-5 現地調査による爬虫類の重要種の確認状況

#### (iv) 昆虫類

##### ■ オモナガコムズムシ

###### [一般生態]

本種は、本属としては中型で、雄の頭部が突出するのが特徴的。平野部の浅い泥底の止水域に生息するが、生息に適した環境に見える場所でも生息していないことが多く、環境の変化に敏感な種と考えられる。泥底の表面の微小な藻類を食べると考えられている。本種の繁殖に関する情報については、不明である。

[出典：「福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2014 -爬虫類/両生類/魚類/昆虫類/貝類/甲殻類その他/クモ形類等-」(平成 26 年, 福岡県)]

###### [現地調査結果]

現地調査結果では、図 11.8.1-6 に示すとおり、夏季調査において、ルート B 踏査時に遊水地内に 4 個体の生息が確認された。遊水地内はヨシやセイバンモロコシ等高茎草が広がる湿地環境となっており、本種の生息環境に適していると考えられる。

##### ■ スゲドクガ

###### [一般生態]

本種は、北海道～本州に分布し、局所的に産する。年 2 回 5～6 月と 8～9 月に出現する。マツカサススキ (カヤツリグサ科)、ヒメガマ (ガマ科)、ヨシ (イネ科) 等を食草としている。湿地に生息し、近年の湿地の開発によって個体数が減少している。

[出典：「日本の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブック 2014 昆虫類」(平成 27 年, 環境省)]

###### [現地調査結果]

現地調査結果では、図 11.8.1-6 に示すとおり、夏季及び秋季調査において、北側遊水地南側に設置したライトトラップによって捕獲された。本種が確認された遊水地内はヨシやセイバンモロコシ等イネ科の高茎草が広がる湿地環境となっており、本種の生息環境に適していると考えられる。

## ■ カンムリセスジゲンゴロウ

### 〔一般生態〕

本種は、全国的に記録の少ない小型のゲンゴロウで、平地の水生植物の豊富な止水域に生息する。県内では2000年代になっていくつかの採集例があるが、安定した生息地はなく、個体数も少ない。本種の採餌、繁殖に関する情報については、不明である。

〔出典：「福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2014 -爬虫類/両生類/魚類/昆虫類/貝類/甲殻類その他/クモ形類等-」（平成26年，福岡県）〕

### 〔現地調査結果〕

現地調査結果では、図 11.8.1-6 に示すとおり、夏季調査において、遊水地北側に設置したライトトラップによって捕獲された。本種が確認された遊水地内はヨシやセイバンモロコシ等高茎草が広がる湿地環境となっており、本種の生息環境に適していると考えられる。

## ■ ナガマルチビゲンゴロウ

### 〔一般生態〕

本種は、本州～九州に分布している。体長は1.5～1.8mmで、平地のごく浅い止水域で採集されることが多い。全国的に少ない種であり、県内での分布も限定的である。本種の採餌、繁殖に関する情報については、不明である。

〔出典：「福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2014 -爬虫類/両生類/魚類/昆虫類/貝類/甲殻類その他/クモ形類等-」（平成26年，福岡県）〕

### 〔現地調査結果〕

現地調査結果では、図 11.8.1-6 に示すとおり、夏季調査において、大井中央公園に設置したライトトラップで確認された。本種が確認された大井中央公園付近には遊水地があり、周辺の湿地環境を主な生息地としていると考えられる。

## ■ コガムシ

### [一般生態]

本種は、日本では北海道、本州、四国、九州に分布する。生息環境は、水深が浅い湿地的な場所や農薬使用の抑えられた水田、自然度が高く浅瀬が多いため池である。本種の餌は、肉食性の幼虫が水生昆虫等、草食性の成虫が水草等である。繁殖地は、湿地やため池で、産卵は水草でつくったゆりかごのような卵のうを水面に浮かべ、その中にゼラチン状の物質を放出して行われる。県内では宗像市、糸島市、久山町等複数の市や町で確認されているが、1990年代以降生息地が減少しており、最近の採集記録は県北部・東部に限られている。体長は16~18mmで、平地の植物の豊富な浅い止水域に生息する。

[出典：「日本動物大百科 10 昆虫類Ⅲ」日高敏隆監修（1998年）  
「福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2014 -爬虫類/両生類/魚類/昆虫類/貝類/甲殻類その他/クモ形類等-」（平成26年，福岡県）]

### [現地調査結果]

現地調査結果では、図 11.8.1-7 に示すとおり、春季調査の底生動物調査において、遊水地内の水路（St. 10）で生息が確認された。本種は植物の豊富な止水域に生息することから、St. 10の湿地環境を生息場として利用していることが考えられる。

## ■ チビマルガムシ

### [一般生態]

本種は、九州以南に分布している。極めて微小な種で、発見しづらい種である。水生植物の豊富な水質の良いため池から見つかることが多い。本種の採餌、繁殖に関する情報については、不明である。

[出典：「福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2014 -爬虫類/両生類/魚類/昆虫類/貝類/甲殻類その他/クモ形類等-」（平成26年，福岡県）]

### [現地調査結果]

現地調査結果では、図 11.8.1-6 に示すとおり、夏季調査において、遊水地北側に設置したライトトラップで確認された。本種が確認された遊水地内はヨシやセイバンモロコシ等高茎草が広がる湿地環境となっており、本種の生息環境に適していると考えられる。

## ■ オオサカスジコガネ

### [一般生態]

本種は、本州～九州に分布している。幼虫はため池や河川下流緩流部のヨシが生育する干潟の土中（汽水域を除く）で生活する。本種の生態は不明な点が多く、西日本に広く分布する割に記録も少ない。本種の採餌、繁殖に関する情報については、不明である。

[出典：「福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2014 -爬虫類/両生類/魚類/昆虫類/貝類/甲殻類その他/クモ形類等-」（平成 26 年，福岡県）]

### [現地調査結果]

現地調査結果では、図 11.8.1-6 に示すとおり、夏季調査において、遊水地北側及び南側に設置したライトトラップによって捕獲された。本種が確認された遊水地内はヨシやセイバンモロコシ等高茎草が広がる湿地環境となっており、本種に適した生息環境になっていると考えられる。

## ■ ヤマトアシナガバチ

### [一般生態]

本種は、北海道を除く日本全国に広く分布している。草本の葉裏や樹木の細枝、時には人家の軒下、壁にも営巣する。全国的に減少しており、類似の同属種が数種ある中で、この種のみが減少した理由は不明。本種の採餌に関する情報については、不明である。

[出典：「日本の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブック 2014 昆虫類」（平成 27 年，環境省）]

### [現地調査結果]

現地調査結果では、図 11.8.1-6 に示すとおり、夏季調査において、全ルートで生息が確認された。本種が確認された環境は、空き地や市街地の水路の近く及び公園内等、植生が多い地点であった。

## ■ ネジロハキリバチ

### [一般生態]

本種は、本州中部以南に分布している。琉球列島では5月～9月の複数回、本州では8月の年1回発生する。ハマナタマメやイボタノキ、ゲンバイヒルガオ、シロバナセンダングサ等に訪花する。昆虫の脱出孔のような地上の既存孔筒に営巣する。福岡県内では従来より個体数は少なかったが、近年減少している。

[出典:「福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2014-爬虫類/両生類/魚類/昆虫類/貝類/甲殻類その他/クモ形類等-」(平成26年, 福岡県)  
「日本産ハナバチ図鑑」(平成26年, 文一総合出版)  
「高知県レッドデータブック 2018 動物編」(平成30年, 高知県) ]

### [現地調査結果]

現地調査結果では、図 11.8.1-6 に示すとおり、夏季調査において、ルートBにおいて任意採集によって確認された。確認されたルートBの遊水地内には、高茎植物が生えており、本種の隠れ場所として利用されていると考えられる。

## ■ ムナカタハキリバチ本土亜種

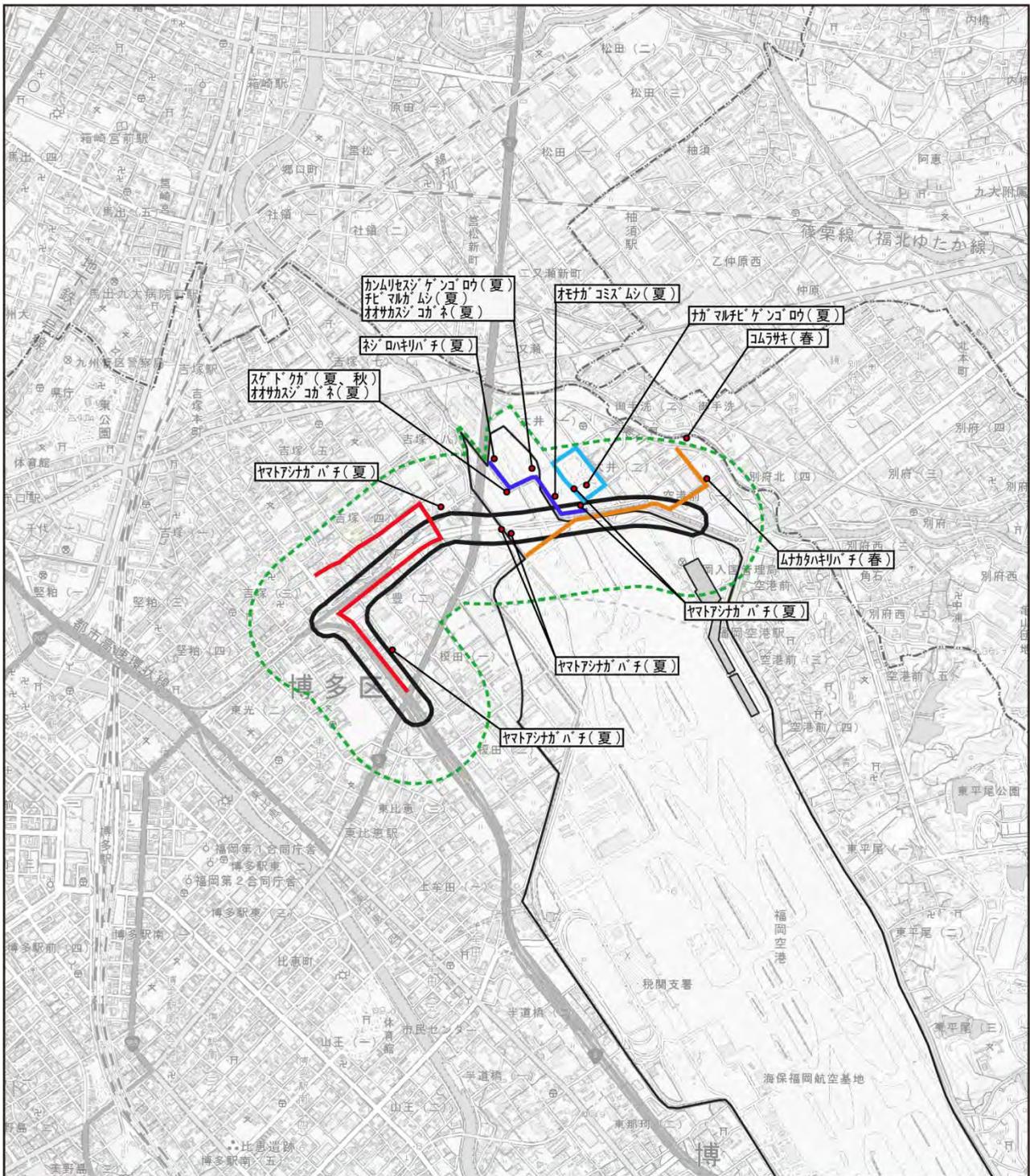
### [一般生態]

本種は、山地・寒地系の種で、県内では、英彦山から記録されて以来記録がない。ハギ類、イボタノキ等に訪花する。温暖化が進み、本県での生息が危ぶまれている。福岡県レッドデータブックではスミズメハキリバチの名称で記載されている。

[出典:「福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2014-爬虫類/両生類/魚類/昆虫類/貝類/甲殻類その他/クモ形類等-」(平成26年, 福岡県)  
「日本産ハナバチ図鑑」(平成26年, 文一総合出版) ]

### [現地調査結果]

現地調査結果では、図 11.8.1-6 に示すとおり、春季調査において、ルートD踏査時に任意採集によって確認された。確認された環境には本種が訪花する植物がみられず、本種は寒冷的な山地に生息することから、調査で確認された個体は、別地点から移動中の個体と考えられる。



凡例

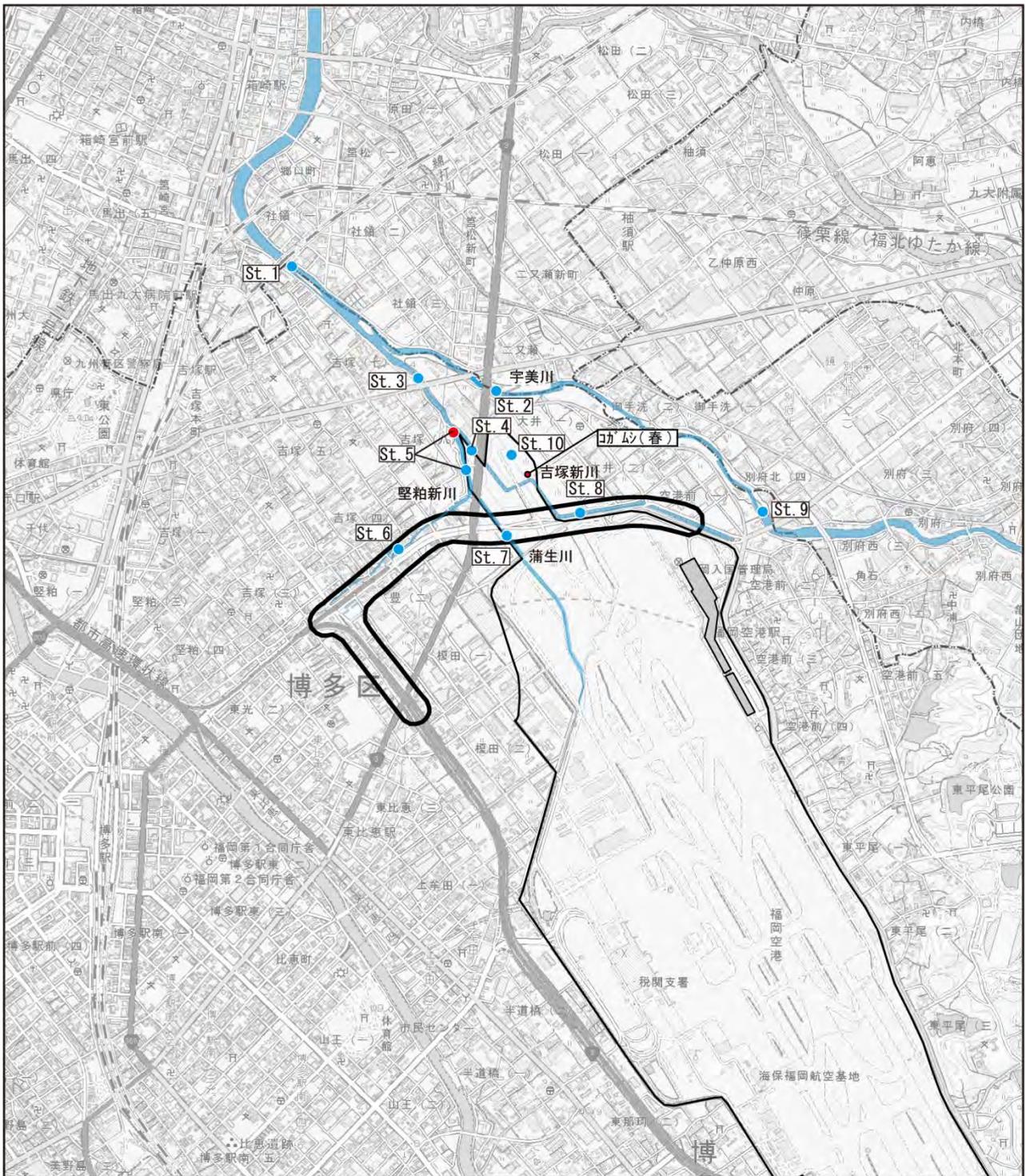
- 都市計画対象道路事業実施区域
- 国内線旅客ターミナル
- 福岡空港
- 市町村界
- 区界
- 調査範囲

- ルート A (市街地)
- ルート B (遊水地・水路)
- ルート C (公園・市街地)
- ルート D (草地・市街地・畑地)
- 重要種確認位置

1:25,000



図 11.8.1-6 現地調査による昆虫類（コガムシ以外）の重要種の確認状況



凡例

- 都市計画対象道路事業実施区域
- 国内線旅客ターミナル
- 福岡空港
- 市町村界
- 区界
- 底生動物調査地点
- 底生動物調査地点（堰起立時）
- 重要種確認位置

1:25,000



図 11.8.1-7 現地調査による昆虫類（コガムシ）の重要種の確認状況

## (v) 魚類

### ■ ニホンウナギ

#### [一般生態]

本種は、県内全域に分布する。一般に、海域で産卵、川で成長する降河回遊型の生活史を営むとされる。マリアナ海嶺で産卵し、葉形仔魚が海流に運ばれ、シラスウナギに変態して河川に遡上する。日中は石垣・土手の穴、底の泥の中等にひそみ、夜間に摂餌活動を開始する。主として水生昆虫類、小型の魚類、貝類、エビ類、カエル類等を捕食する。水温が10℃以下になるとほとんど摂餌せず、冬季は泥に潜っている。

[出典：「福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2014-爬虫類/両生類/魚類/昆虫類/貝類/甲殻類その他/クモ形類等-」(平成26年、福岡県)  
「山溪カラー名鑑 日本の淡水魚」(平成1年、山と溪谷社)]

#### [現地調査結果]

現地調査結果では、図 11.8.1-8 に示すとおり、冬季、春季、夏季及び秋季調査において、宇美川 (St.1, 2, 9)、吉塚新川 (St.3)、堅粕新川 (St.5) で生息が確認された。生息が確認された地点は底質が泥あるいは砂泥であり、本種の生息環境に適していると考えられる。博多湾から確認地点までは、縦断方向に連続性が確保されていることから、遡上個体が当該地区を回遊経路及び生息場として利用されていることが考えられる。

### ■ ドジョウ

#### [一般生態]

本種は、県内に広く分布するが本種の生息に適した中下流域の淀みや、植物の豊富な農業用水路、水路から自由に行き来できる水田等が減少し生息環境の悪化が続いている。特に福岡市や北九州市、久留米市といった大都市周辺では個体数が極めて少ない。山間部から平野部まで広くみられ、植物の豊富な浅い止水域に生息する。産卵期は5~6月頃で、水田や浅い湿地等の一時的な水域に移動し産卵することが知られる。微小な有機物を食べる。泥底に潜って冬眠する。

[出典：「福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2014-爬虫類/両生類/魚類/昆虫類/貝類/甲殻類その他/クモ形類等-」(平成26年、福岡県)  
「川の生物図典」(平成8年、山海堂)]

#### [現地調査結果]

現地調査結果では、図 11.8.1-8 に示すとおり、冬季及び夏季調査において、遊水地内の水路 (St.10) で生息が確認された。生息が確認された地点はコンクリート水路内及び湿地環境であり、泥の堆積した湿地が多く、水路内にも植物の枯死体が堆積する等本種にとって良好な生息環境が提供されていると考えられる。

## ■ アユ

### [一般生態]

本種は、県内に広く分布するが、再生産が確認できる河川は少ない。成長と産卵を河川で、初期生活史の一部を海域で過ごす通し回遊魚であり、海域・河川間の移動を阻害する横断構造物が生息阻害のリスク要因となっている。遡上期は、南方では3～5月、北方では5～7月頃で、河川中流域に入ったアユは岩盤や石礫のあるところに好んで定住し、それらの表面の付着藻類を採餌する。この際、櫛状歯のある上下の唇をこすりつけるため、石の表面には独特のハミ跡が残る。産卵は下流に移動して行うため、下流域に産卵に適した瀬があることが重要である。

[出典:「福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2014-爬虫類/両生類/魚類/昆虫類/貝類/甲殻類その他/クモ形類等-」(平成26年, 福岡県)]

### [現地調査結果]

現地調査結果では、図 11.8.1-8 に示すとおり、春季調査において、宇美川 (St. 9) で生息が確認された。生息が確認された St. 9 は博多湾から縦断方向の連続性が確保されていることから、遡上個体が当該地区を回遊経路及び生息場として利用していることが考えられる。

## ■ ミナミメダカ

### [一般生態]

本種は、県内に広く分布する。河川中下流域の植生が豊富なワンド環境やそれに連なる農業用水路、山間のため池等に生息する。高温、低温、塩分、水質汚濁等に比較的強く、38.8℃の温泉、海の沿岸域、塩田にも生息し、また有機物の多い水域にも生息可能であるが、常時生息しているかどうかは不明である。純海水中でも発見された例がある。水温13℃以下では活動が鈍り、冬季はあまり活動しない。特定外来種カダヤシの侵入や、農業用水路の三面コンクリート化により個体数が減少している地域が多い。食性は動物プランクトンや植物プランクトンのほか、小さな落下昆虫等を食う雑食性。産卵は早朝に水草等に産みつけられる。

[出典:「福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2014-爬虫類/両生類/魚類/昆虫類/貝類/甲殻類その他/クモ形類等-」(平成26年, 福岡県)  
「山溪カラー名鑑 日本の淡水魚」川那部ほか編監修(1989年)]

### [現地調査結果]

現地調査結果では、図 11.8.1-8 に示すとおり、冬季、春季、夏季及び秋季調査において、宇美川 (St. 1, 2, 9) 吉塚新川 (St. 3, 4, 8), 堅粕新川 (St. 5, 6), 蒲生川 (St. 7) と多くの地点で生息が確認された。生息が確認された地点は、汽水域～淡水であり、広い範囲を生息域としていることが確認された。確認地点に生えている水際植生や抽水植物は、本種の隠れ場所や産卵場所となっていると考えられる。

## ■ カワアナゴ

### [一般生態]

本種は、県内全域に分布する。両側回遊型であるが、河口堰等の建設により生息に適した場所が消失している。河川の汽水域から下流域にかけて生息し、泥底より砂底や礫底を好む場合が多い。テトラポッドや倒木の下、根際等にひそみ、夜間に外に出て活動する。動物食である。産卵については不明である。

[出典:「福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2014-爬虫類/両生類/魚類/昆虫類/貝類/甲殻類その他/クモ形類等-」(平成26年,福岡県)  
「山溪カラー名鑑 日本の淡水魚」(平成1年,山と溪谷社)]

### [現地調査結果]

現地調査結果では、図 11.8.1-8 に示すとおり、冬季、夏季及び秋季調査において、吉塚新川 (St.4) 及び堅粕新川 (St.5) で生息が確認された。生息が確認された St.4 及び St.5 の底質は砂が主体であるが、本種は河床に沈んだ板の下等から確認された。博多湾から確認地点までは、縦断方向に連続性が確保されていることから、遡上個体が当該地区を回遊経路及び生息場として利用されていることが考えられる。

## ■ ウキゴリ

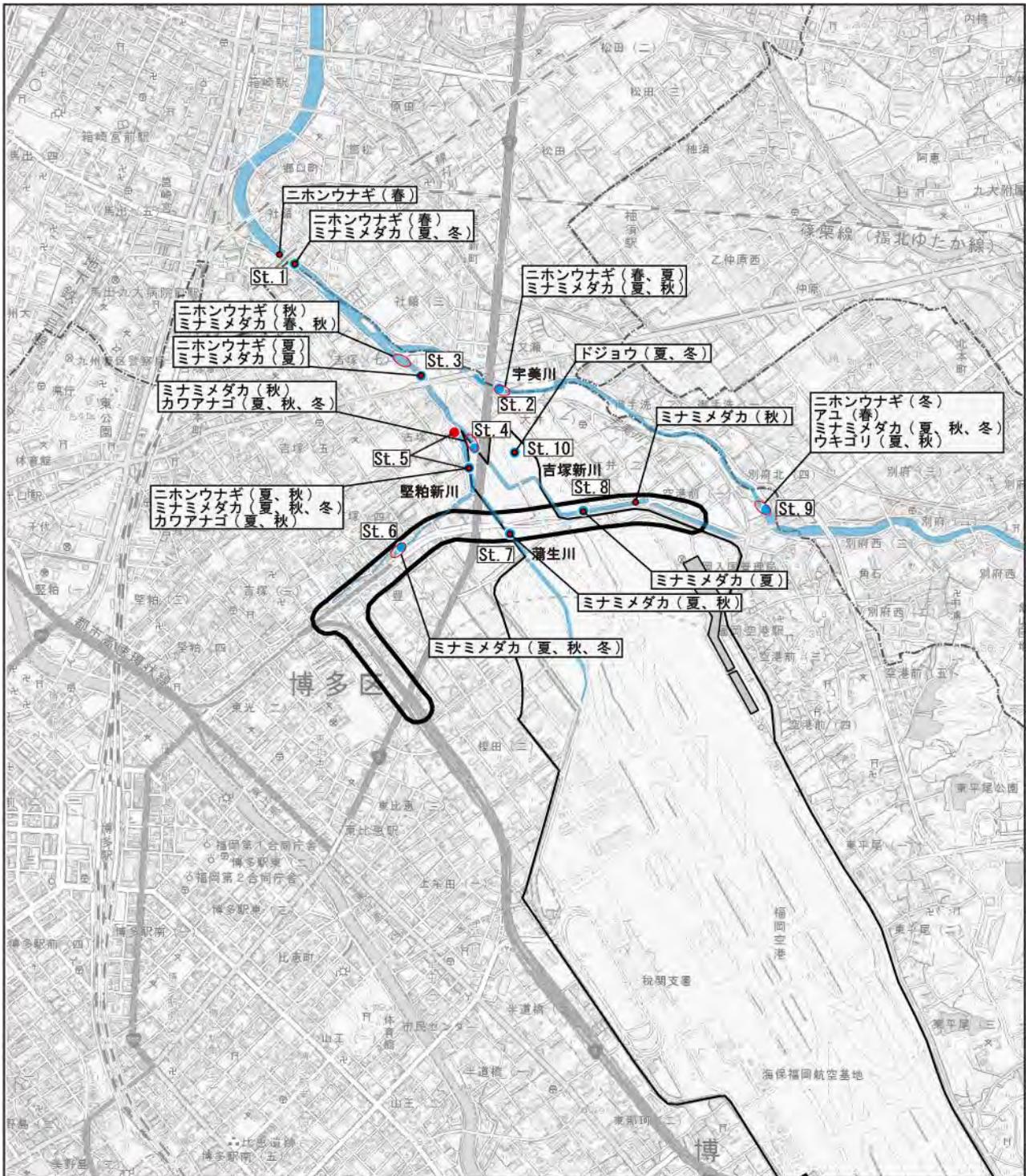
### [一般生態]

本種は、北海道から種子島・屋久島まで分布する広域分布種で、県内では複数の水系からの採集記録があるものの、その分布は不連続である。河川の汽水域から中流域までの流れの緩やかな淵やワンドに多い。動物食性で河川では水生昆虫や仔稚魚を、湖沼ではエビ類やハゼ類の幼魚を餌としている。オスは石や板の下に産卵室を作り、メスを呼び込んで産卵させる。産卵後、オスはメスを追い出し、孵化までの10日前後、単独で卵を保護する。

[出典:「福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2014-爬虫類/両生類/魚類/昆虫類/貝類/甲殻類その他/クモ形類等-」(平成26年,福岡県)  
「山溪カラー名鑑 日本の淡水魚」(平成1年,山と溪谷社)]

### [現地調査結果]

現地調査結果では、図 11.8.1-8 に示すとおり、春季及び夏季調査において、宇美川 (St.9) で生息が確認された。生息が確認された環境は、St.9 の流れの緩やかな淵であり、ヌマエビやスジエビを捕食していると考えられる。また、底質は砂礫質で、転石が見られないことから、産卵場所には利用されていないと考えられる。



凡例

-  都市計画対象道路事業実施区域
-  国内線旅客ターミナル
-  福岡空港
-  市町村界
-  区界
-  魚類調査地点
-  魚類調査地点（堰起立時）
-  重要種確認位置

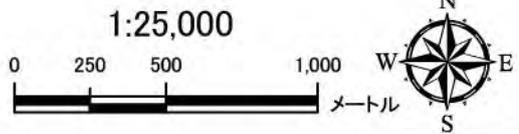


図 11.8.1-8 現地調査による魚類の重要種の確認状況

## (vi) 底生動物

### ■ ミズゴマツボ

#### [一般生態]

本種は、県内に比較的広く分布している。主に海岸や汽水域近くの池沼、用水路や河川、そのやや上流の淡水域の泥底に生息する。他県の事例では、ヤマトシジミが多数生息する汽水域で生息が確認されている。生息地は河川改修や護岸工事等の影響を受けやすい場所でもあり、環境変化による減少が危惧される。夏季に産卵する。本種の採餌、繁殖に関する情報については、不明である。

[出典：「福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2014-爬虫類/両生類/魚類/昆虫類/貝類/甲殻類その他/クモ形類等-」(平成 26 年, 福岡県)  
「ピーシーズ生態写真図鑑シリーズ 1 日本産淡水貝類図鑑①琵琶湖・淀川産の淡水貝類」(平成 15 年, (株)ピーシーズ) ]  
「日本の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブック 2014 貝類」  
(環境省, 平成 26 年)

#### [現地調査結果]

現地調査結果では、図 11.8.1-9 に示すとおり、冬季、夏季及び秋季調査において、吉塚新川 (St. 3, 4, 8), 堅粕新川 (St. 5) で生息が確認された。生息が確認された St. 4, St. 5 とともに砂泥質の河床であるが、本種は泥質を好むことから、砂質よりも泥質が多い範囲を利用していることが考えられる。

### ■ コシダカヒメモノアラガイ

#### [一般生態]

本種は、県内に広く分布するが、記録はやや散見的で他のモノアラガイ類に比べると生息密度も低い。外来種との見方もあることから分布情報の蓄積や今後の研究が待たれる。日本各地の水田に分布し、主に水田の畦や湿地やその水際に生息する。泥のくぼみや草本類の根元、湿ったコンクリート壁等に付着する。近年の圃場整備や水田の冬季乾田化により、減少傾向にある。本種の採餌、繁殖に関する情報については、不明である。

[出典：「福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2014-爬虫類/両生類/魚類/昆虫類/貝類/甲殻類その他/クモ形類等-」(平成 26 年, 福岡県)  
「ピーシーズ生態写真図鑑シリーズ 2 日本産淡水貝類図鑑②汽水域を含む全国の淡水貝類」(平成 16 年, (株)ピーシーズ) ]

#### [現地調査結果]

現地調査結果では、図 11.8.1-9 に示すとおり、冬季、春季及び秋季調査において、堅粕新川 (St. 6) 及び蒲生川 (St. 7) で生息が確認された。生息が確認された St. 6 は 3 面張り水路であるが、河岸から植生が垂れ下がっており、そのような植物の影を生息場として利用していることが考えられる。St. 7 は植生が豊富であり、本種の生息場として適していると考えられる。

## ■ モノアラガイ

### [一般生態]

本種は、県内での分布記録は比較的多いが、河川改修や圃場整備等により減少していると考えられる。池沼や水田、川の淀み等の水草や礫に付着している。底泥表面で見られることもある。産卵期にはゼラチン質の卵塊を水草や礫に産み付ける。近縁の外来種が侵入している可能性があり、生態的競合が危惧される。本種の採餌に関する情報については、不明である。

[出典:「福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2014-爬虫類/両生類/魚類/昆虫類/貝類/甲殻類その他/クモ形類等-」(平成 26 年, 福岡県)  
「ピーシーズ生態写真図鑑シリーズ 1 日本産淡水貝類図鑑①琵琶湖・淀川産の淡水貝類」(平成 15 年, (株)ピーシーズ) ]

### [現地調査結果]

現地調査結果では、図 11.8.1-9 に示すとおり、冬季、春季、夏季及び秋季調査において、壱粕新川 (St.5, 6)、宇美川 (St.9) で生息が確認された。生息が確認された St.5, St.6, St.9 に存在する水際植生を主な生息場として利用していることが考えられる。

## ■ ナガオカモノアラガイ

### [一般生態]

本種は、県内での山地は限定的で、個体数も少ない。河川や湿地等水際植生の近くに生息する。河川や湿地の開発・汚染によりその数を減少させている。本種の採餌、繁殖に関する情報については、不明である。

[出典:「福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2014-爬虫類/両生類/魚類/昆虫類/貝類/甲殻類その他/クモ形類等-」(平成 26 年, 福岡県) ]

### [現地調査結果]

現地調査結果では、図 11.8.1-9 に示すとおり、夏季及び秋季調査において、蒲生川 (St.7) 及び遊水地内の水路 (St.10) で生息が確認された。生息が確認された St.7 及び St.10 に存在する水際植生を主な生息場として利用していることが考えられる。

## ■ ヤマトシジミ

### [一般生態]

本種は、日本全国に分布し、県内では遠賀川水系、山国川水系、筑後川水系、矢部川水系等に生息している。河川の干潮域に生息しているが、改修工事や開発によって生息環境が改変されやすい状況にあり、全国的に減少傾向にある。県内においても底質の泥化や貧酸素の発生等によりその数を減らしている。本種の採餌、繁殖に関する情報については、不明である。

[出典:「福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2014-爬虫類/両生類/魚類/昆虫類/貝類/甲殻類その他/クモ形類等-」(平成26年, 福岡県)]

### [現地調査結果]

現地調査結果では、図 11.8.1-9 に示すとおり、春季、夏季及び秋季調査において、宇美川 (St. 1, 2) 及び吉塚新川 (St. 3) で生息が確認された。生息が確認された地点は汽水域であり、干潮時には砂州が広がる。本種はこのような砂質の河床を生息基盤として利用していることが考えられる。

## ■ イトメ

### [一般生態]

本種は、県内では長井浜 (行橋市)、曾根干潟、大牟田川等に生息している。河川汽水域の高潮帯 (ヨシ原等) の砂泥底に巣穴を掘って生息する。汽水域に隣接する淡水域に出現することもあり、かつては沿岸部の稲作に被害をおよぼすほど多産したが、河口域における干潟の埋立や護岸工事等のため激減した。繁殖期は11月～12月で、新月後または満月後の数日間にわたって生殖群泳する。本種の採餌に関する情報については、不明である。

[出典:「福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2014-爬虫類/両生類/魚類/昆虫類/貝類/甲殻類その他/クモ形類等-」(平成26年, 福岡県)  
「環形動物 多毛類」(平成8年, (株)生物研究社)]

### [現地調査結果]

現地調査結果では、図 11.8.1-9 に示すとおり、冬季、夏季及び秋季調査において、宇美川 (St. 1)、吉塚新川 (St. 3, 4, 8) で生息が確認された。生息が確認された地点はいずれも感潮域であり、河床は砂泥質になっている。本種はそのような砂泥質の河床を生息基盤として利用しているものと考えられる。

## ■ ベンケイガニ

### [一般生態]

本種は、太平洋側は千葉県以南、日本海側は秋田県以南、本州、四国、九州、南西諸島に分布する。甲長約 32cm である。河川の中・下流域や海岸近くの草地、土手、湿地帯、田の畔等に巣穴を掘って生息する。夏には産卵のために河川や海岸に移動する。コンクリート護岸や河川改修によるヨシ原や土手・石垣の消滅、護岸による海への移動経路遮断等で個体数が減少。大河川のヨシ原には少なくないが、島の小個体群は危機的状況にある。県内でも、相島（新宮町）、多々良川、沖端川等では個体数が激減している。本種の採餌に関する情報については、不明である。

[出典：「福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2014-爬虫類/両生類/魚類/昆虫類/貝類/甲殻類その他/クモ形類等-」（平成 26 年，福岡県）  
「日本産淡水性・汽水性甲殻類 102 種 日本の淡水性エビ・カニ」  
（平成 26 年，誠文堂新光社）]

### [現地調査結果]

現地調査結果では、図 11.8.1-9 に示すとおり、春季、夏季及び秋季調査において、宇美川（St.1, 2）で生息が確認された。本種はヨシ原に生息する傾向があり、St.2 においては、このようなヨシ原環境を生息場として利用していることが考えられる。St.1 にはヨシ原環境はないが、転石環境を主な生息場として利用していると考えられる。

## ■ タイワンヒライソモドキ

### [一般生態]

本種は、1988 年に筑前大島（宗像市）で発見されたが、現状は不明。絶滅した可能性もある。県内ではほかに、北九州市小倉北区と若松区で記録がある。淡水の影響が強い汽水域上流部の転石潮間帯中部付近を主な生息場所とするが、川改修や河口堰建設等による生息地の破壊のため、各地で個体群が衰退している。本種の採餌、繁殖に関する情報については、不明である。

[出典：「福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2014-爬虫類/両生類/魚類/昆虫類/貝類/甲殻類その他/クモ形類等-」（平成 26 年，福岡県）]

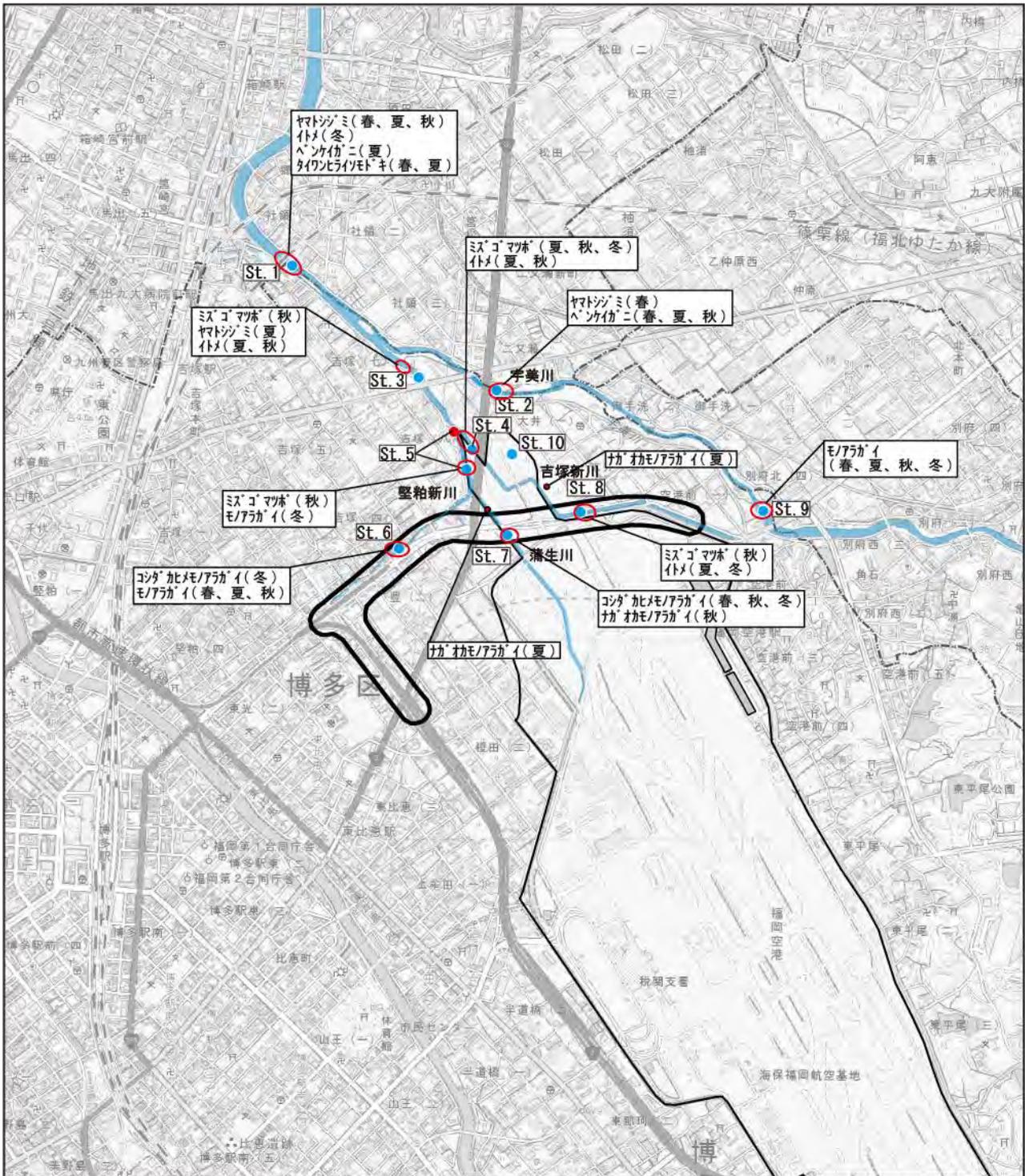
### [現地調査結果]

現地調査結果では、図 11.8.1-9 に示すとおり、春季及び夏季調査において宇美川（St.1）で生息が確認された。本種は転石潮間帯付近を主な生息場とする。St.1 には淡水流入付近に転石が点在する箇所があり、このような環境を生息場として利用していることが考えられる。

## イ) 注目すべき生息地

注目すべき生息地の選定にあたっては、最新の法律や既存資料により判断するものとし、文献その他の資料調査と同様、表 11.8.1-5 に示した選定基準を用いた。

現地調査の結果、調査地域において注目すべき生息地は確認されなかった。



凡例

- 都市計画対象道路事業実施区域
- 国内線旅客ターミナル
- 福岡空港
- 市町村界
- 区界
- 底生動物調査地点
- 底生動物調査地点（堰起立時）
- 重要種確認位置

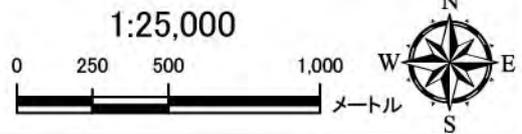


図 11.8.1-9 現地調査による底生動物の重要種の確認状況